

主体的に学習に取り組む子供の育成

～子供の主体性を育む **4つの学習活動** を通して～



令和7年2月

東京都多摩教育事務所



ホームページに掲載

目次

基本的な考え方

I 研究主題	1
II 研究主題設定の理由	1
III 研究の概要	2
IV 研究概要図	4

実践事例

◆ 実践事例の読み方	5
◆ 実践事例	
<実践事例 1> 習得  小学校 国語 第4学年	6
<実践事例 2> 探究  小学校 国語 第5学年	8
<実践事例 3> 習得  小学校 社会 第6学年	10
<実践事例 4> 習得  小学校 算数 第4学年	12
<実践事例 5> 探究  小学校 理科 第6学年	14
<実践事例 6> 探究  小学校 生活 第1学年	16
<実践事例 7> 習得  小学校 音楽 第4学年	18
<実践事例 8> 探究  小学校 図画工作 第6学年	20
<実践事例 9> 探究  小学校 体育 第3学年	22
<実践事例 10> 習得  小学校 外国語活動 第3学年	24
<実践事例 11> 探究  小学校 総合的な学習の時間 第6学年	26
<実践事例 12> 習得  中学校 国語 第1学年	28
<実践事例 13> 習得  中学校 国語 第2学年	30
<実践事例 14> 探究  中学校 社会 第3学年	32
<実践事例 15> 習得  中学校 数学 第1学年	34
<実践事例 16> 探究  中学校 理科 第1学年	36
<実践事例 17> 習得  中学校 音楽 第2学年	38
<実践事例 18> 探究  中学校 美術 第3学年	40
<実践事例 19> 習得  中学校 保健体育 第3学年	42
<実践事例 20> 習得  中学校 技術・家庭（技術分野） 第3学年	44
<実践事例 21> 探究  中学校 外国語 第2学年	46
<実践事例 22> 探究  中学校 特別活動（学級活動） 第1学年	48

講師資料

◆ 主体的に学習に取り組む子供をどう育てるか	50
------------------------	----

研究のまとめ

◆ 研究のまとめ	52
----------	----

基本的な考え方

I 研究主題

研究主題

主体的に学習に取り組む子供の育成 ～子供の主体性を育む4つの学習活動を通して～

目指す子供像

主体的に学習に取り組み、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む子供

II 研究主題設定の理由

主体的に学習に取り組む子供の育成が求められる背景

生成AI等の情報技術の加速度的な進展等も見据えつつ、社会の変化に応じて、柔軟にキャリアアチェンジしながら人生100年を生き抜く時代が到来するという指摘がある。

こうした未来社会を生きる子供たちには、基礎的な知識及び技能を習得させ、これらを活用した思考力・判断力・表現力等を育成すると同時に、今後は、自らの学びに主体的に取り組む力、学びに向かう力をバランス良く育てていくことが一層重要となっている。

これからの学校においては、子供の実態に応じて、学習内容の確実な定着を図る観点や、その理解を深め、広げる学習を充実させる観点から、これまで以上に個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することが重要である。また、子供たちが、自発的に他者と関わりながら自分で学びを深めていくような学習活動を適切に組み入れ、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められている。

子供の主体性を育む学習活動

本研究では、子供たちが主体的に学習に取り組むためには、どのような学習活動が必要であるか、学習指導要領等を分析し、4つの学習活動に整理し、研究を進めることにした。

<子供の主体性を育む4つの学習活動>



習得の段階に
おける深い学び



学んだことの意義
を実感する学び



体験活動、課題選択
自主的・自発的な学び



自分に合った学び方
協働的な学び

III 研究の概要

● 子供の主体性を育む4つの学習活動

本研究では、4つの学習活動を位置付け、単元（題材）をデザインすることで、学習活動の目的が明確となり、子供たちも「何のための学習活動であるか」を意識して、主体的に学習に取り組むことができるようになる考えた。

各教科等の指導に当たっては、学習に必要となる個別の知識については、**教師が児童の学びへの興味を高めつつしっかりと教授するとともに、深い理解を伴う知識の習得につなげていくため、児童がもつ知識を活用して思考することにより、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、知識を他の学習や生活の場面で活用できるようにしたりするための学習が必要**となる。

（小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編）※中学校学習指導要領解説総則編にも同様の記載あり



習得の段階における深い学び

児童が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる「学びに向かう力、人間性等」は、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。～（中略）～こうした情意や態度等を育てていくためには、前述のような我が国の学校教育の豊かな実践を生かし、体験活動を含めて、**社会や世界との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動を充実させていくことが重要**となる。

（小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編）※中学校学習指導要領解説総則編にも同様の記載あり



学んだことの意義を実感する学び

資質・能力を偏りなく育成していくに当たり、「学びに向かう力、人間性等」を育む観点からは、**体験活動の充実が重要**である。「学びに向かう力、人間性等」は～（中略）～の教科等の特質に応じた体験を伴う学習活動の充実を図ることとしている。

各教科等の指導を通して資質・能力の三つの柱をバランスよく育成していくため、**児童が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設ける**など、**児童の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう**、教育課程の実施上の工夫を行うこと。

（小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編）※中学校学習指導要領解説総則編にも同様の記載あり



体験活動、課題選択
自主的・自発的な学び

このような新しい時代における基礎的な知識及び技能とは何かを問い直していくことが求められるといった指摘や、特に、義務教育では、自立した学習者として子供たちを育てることが重要であり、**自分に合った学び方をしっかりと身に付けさせることが大切である**との指摘があった。

子供たちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるように育てていくためには、ICTを有効に活用し、教師が個々の子供の学びの状況を把握しつつ、学びの主導権を子供たちに委ねることにより、子供たちが、**自らの学びを「自分事」として捉え、自発的に他者と関わりながら自分で学びを深めていくような学習活動**を、学年や学期等の一定の学校教育活動のまとまりの中に適切に組み入れていくことが重要である。

（中央教育審議会初等中等教育分科会義務教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ（令和5年12月28日））



自分に合った学び方
協動的な学び

習得の段階における深い学び

なるほどよく分かった

- 問題を把握し、既習事項の見方・考え方が使えないか、これまでの学習内容を確認して考えている。



<実践事例15 中学校 数学>

学んだことの意義を実感する学び

そうだったのが生かせそう

- A L Tに自分のスピーチが伝わることで、海外の人とコミュニケーションをとる楽しさを実感している。



<実践事例21 中学校 外国語>

体験活動、課題選択
自主的・自発的な学び

これをやりたい もっとやりたい

- 常に実物に触れ、確かめながら考えることで実感を感じ、理解できるような取り組みをしている。



<実践事例5 小学校 理科>

自分に合った学び方
協動的な学び

こうしてみよう一緒にやろう

- 友達の活動を見たり対話したりして、よりよい方法で作品を作り、表現を工夫しようとしている。



<実践事例8 小学校 図画工作>

● 研究の視点

視点1 習得と探究をつなぐ単元（題材）のデザイン

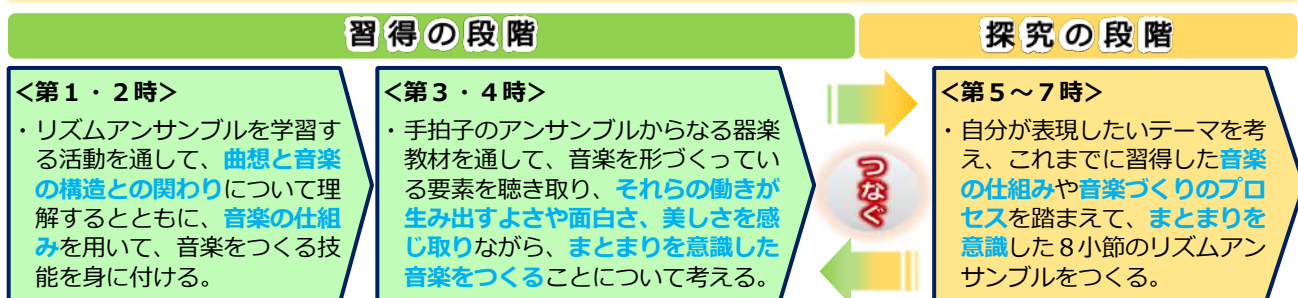
視点1では、単元（題材）において、子供が「どのような力を身に付けるか」を明確にして、4つの学習活動を位置付けた習得と探究をつなぐ単元（題材）のデザインを開発した。

単元（題材）のデザインの開発に際しては、各教科等の目標や内容等を踏まえ、習得と探究のバランスを考慮した。

習得の段階では、子供が問題解決の過程を通じて、主体的に学び、単に知識及び技能を獲得するだけでなく、思考力、判断力、表現力等の資質・能力を育成することを目指した。

探究の段階では、習得の段階で身に付けた力を活用し、児童・生徒の興味・関心や理解の状況に応じて設定した課題を、追究できるような単元（題材）のデザインとした。

<実践事例7> 小学校 音楽 第4学年 「いろいろなリズムを感じ取ろう」



視点2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

視点2では、単元（題材）の各学習活動における、自己調整している姿や粘り強く取り組んでいる姿を具体的に想定した評価規準を設定し、「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行った。

<実践事例16> 中学校 理科 第1学年 「植物の分類」

本時の目標
自分なりに一番魅力的だと思う植物を選び、既習事項を基に植物の「体のつくり」「働き」「殖え方」などに着目し、植物の特徴をまとめようとする。

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

どの植物が一番魅力的だと思うか、既習事項を基に自分の考えを話し合ったり、よりよくまとめようとしていたりしている。



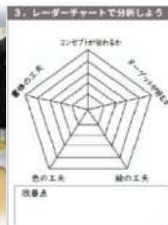
視点3 子供の主体性を促す教師の役割

視点3では、習得の段階と探究の段階における、教師の役割に着目した。子供が自立した学習者となるよう、習得の段階及び探究の段階の教師の指導・支援、教材の工夫等、教師の役割について追究した。

<実践事例18> 中学校 美術 第3学年 「パッケージで魅力を伝える～ご当地ドリンクのパッケージデザイン～」

【教師の役割】

- 生徒のコンセプト一覧を壁に大きく掲示し、目的に応じて他者の意見を聞くことができるようにする。
- 既習事項や習得の段階で学んだことをホワイトボードに示し、対話スペースを設置する。



主体的に学習に取り組む子供の育成

視点1

習得と探究をつなぐ単元（題材）のデザイン

※ 本委員会で学習指導要領等を分析し整理した

子供の主体性を育む4つの学習活動



習得の段階における深い学び

なるほど
よく分かった



問題を把握し、既習事項の見方・考え方が使えないか、これまででの学習内容を確認して考えている。

<実践事例15 中学校 数学>



学んだことの意義を実感する学び

そうだったのか
生かせそう



ALTに自分のスピーチが伝わることで、海外の人とコミュニケーションをとる楽しさを実感している。

<実践事例21 中学校 外国語>



体験活動、課題選択
自主的・自発的な学び

これをやりたい
もっとやりたい



常に実物に触れ、確かめながら考え、美観を添えて理解できるように取組んでいる。

<実践事例5 小学校 理科>



自分に合った学び方
協働的な学び

こうしてみよう
一緒にやろう



友達の活動を肩たたりして、よりよい方法で作品を作り、表現を工夫しようとしている。

<実践事例8 小学校 図画工作>

習得の段階

基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、課題を解決するために必要な力を身に付ける段階

できる



よく分かる



ワクワクする

課題の設定



予想・見通し



探究

結論
振り返り



課題の追究

追究する



探究の段階

子供が自分自身の興味・関心や理解の状況に応じて課題を設定し、習得の段階で身に付けた力を活用して、主体的に課題を追究する段階

視点2

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

視点3

子供の主体性を促す教師の役割

※1 既習の知識を活用して新たな知識を習得することも含む ※2 習得の段階で身に付けた力を探究の段階で活用する ※3 探究の段階での必要感、気付き等に応じて習得の段階と住題する

実践事例の読み方

視点1

習得と探究をつなぐ単元（題材）のデザイン

習得の段階で身に付ける力や探究の段階で活用する力等を**水色太字**で示している。

単元の中で位置付けた**4つの学習活動をアイコン**で示している。

視点3

子供の主体性を促す教師の役割

習得と探究それぞれの段階における教師の**指導や支援の具体**を記載している。

活用したICTの機能やアプリ等を**紫色**で示している。

「主体的に学習に取り組む態度」に関する児童・生徒アンケートの結果を示している。

＜実践事例7＞

小学校 音楽 第4学年 「いろいろなリズムを感じ取ろう」

水題材の目標

- 曲題やリズムや拍などの音楽の構成との関わりや、言葉のリズムのつなげ方や重なりの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどについて深く感じとる。反復や変化、呼びかけとたたえを用いたリズムアンサンブルをつくる特徴を身に付ける。
- リズム、拍、反復、呼びかけとたたえ、変化を聞き取り、それらの要素が生み出すよさや面白さ、楽しさを感じ取りながら、とどまらなくなったこととの関わりについて考え、どのようにまとまるとよさを意識した音楽をつくるかについて思いや疑問をもち、問いやリズムが生み出すよさや面白さに興味・関心をもち、音楽鑑賞を楽しむなかから主体的・協働的に音楽、音楽づくりの学習活動に取り組む。音楽に楽しむ。

4つの学習活動を並置した習得と探究をつなぐ題材のデザイン

習得の段階

【習得1・7分】
 本題材のICT活用
 ・デジタル教科書
 ・共有機能
 ・学習記録
 ・音楽制作アプリ
 ・楽曲の構成分析機能

【習得2・7分】
 習得の段階における深い学び
 リズムアンサンブルを演奏する活動を通して、音楽の仕組みを視覚的に捉え、それらの構造が生み出すよさや面白さを意識することから始める。また、まりを意識した音楽にすることをめには、どのように演奏すればよいかを考へ、思いや疑問を共有できるようにする。

探究の段階

【探究1・7分】
 探究の段階
 ・音楽の仕組みをさらに深められるよう他
 ・音楽の仕組みをさらに深められるよう他
 ・音楽の仕組みをさらに深められるよう他

【探究2・7分】
 探究の段階
 ・音楽の仕組みをさらに深められるよう他
 ・音楽の仕組みをさらに深められるよう他

本単元：「習得」の段階

本単元目標（第4学年/生7時間）
 ● 学習活動
 ● 教師の役割
 振り返りや変化を用いたリズムアンサンブルをつくり、リズム、拍、反復、呼びかけなどから、変化の構造が生み出すよさや面白さを意識し取る。

- 前時までの学習を振り返る。学習記録の活用で確認し、本時の高橋しからせるようにする。
- 新曲の課題をテーマで、ペアでリズムアンサンブルを演奏し、習得した音楽の要素や仕組み、構奏物等を活用し、習得づくりをするよう促す。
- 作品を共有し、互いの作品を聞き合い、よい点を伝え、自分の得意なところや、音楽の要素のよいところや、仕組みのよいところ等を共有し、習得づくりをするよう促す。
- これまでの学習を振り返る。学習記録の活用で確認し、本時の高橋しからせるようにする。

児童アンケートの結果



＜重視した学習活動＞

本単元で重視した学習活動の具
体とその意図等を示している。

視点2

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- 「学びに向かう力、人間性等」の目標を**茶色字**で示している。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の**評価規準を具体化し茶色字**で示している。
- 主体的に学習に取り組む子供の姿を**キヤッチコピー**で示している。
- 各学習活動における主体的に学習に取り組む子供の姿を**茶色字**で示している。

授業実践の成果や課題、子供の姿や教師の意識の変容、その後の取組等を記載している。

小学校 国語 第4学年 「ごんぎつね」

単元の目標

- (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。
- (2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
- (4) **言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、幅広く考えを伝え合おうとする。**

4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ単元のデザイン

習得の段階

<第1・2時>

- ・単元のゴールや学習活動を具体的に示し、学習の見通しをもつ。
- ・**物語の設定**を捉えるとともに、**物のあらまし**をつかむ。

【教師の役割】

- ・思考ツール（座標軸）を活用し、初読の印象を可視化して、感想を交流できるようにする。
- ・物語を一文で表現できるようにすることで、他者の読みとの違いから問いを見出せるようにする。

<第3～8時>

- ・登場人物の様子や行動、情景描写、場面の移り変わり等に注目し、**気持ちや性格を表す語句**について理解する。
- ・**「作者からの宝」**（作者が伝えたいこと）を探し、自分の考えをもつ。

【教師の役割】

- ・「ごん日記」を書くという言語活動を通して、登場人物の様子や行動に着目し、登場人物の気持ちを具体的に想像できるようにする。
- ・「心情表現図」を活用することで、場面の移り変わりから登場人物の気持ちの変化を具体的に想像できるようにする。

探究の段階

<第9～12時>

- ・既習の文学的な文章から、自身が探究したい（読み直したい）作品を選択する。
- ・選択した作品を読み直し、習得の段階で身に付けた登場人物の様子や行動に着目して**読む力を活用**して**「作者からの宝」**を探す。

【教師の役割】

- ・教科書や絵本等、既習の文学的な文章を複数用意し、児童が興味をもって探究活動に取り組みやすいように支援する。
- ・同じ作品で探究するグループで意見交流をしながら、他者の考えも取り入れられるように促す。

本単元でのICTの活用

- ・付箋アプリ（思考ツール：座標軸）
- ・共有機能

【本単元で重視した学習活動】

学んだことの意義を実感する学び

初読の印象との比較や、「作者からの宝」を探す活動を通して、自身の読みの変容を実感したり、作品の多様な見方に触れたりする中で自身の考えを再構築できるようにする。また、他者の考えを聞くことで、文学的な文章の面白さや新たな見方に気づき、学んだことの意義を実感できるようにする。



この作品の宝ってなんだろう。

🔗 本時：「習得」の段階

本時の目標（第8時／全12時間） ●●● 学習活動 ・教師の役割

- ・ 文章を読んで理解したことに基づき、作者が読み手に伝えたかったこと「作者からの宝」について自分の考えをもつことができる。
- ・ 思いや考えを伝え合う中で、作品の新たな見方やより深い解釈、感じ方の違いや面白さを実感しようとする。

1 本時の課題と流れを確認する。

- ・ 本時の課題や学習活動を確認し、見通しをもてるようにすることで、主体的に学びに向かう環境を整える。

2 物語の印象やごんの心情について考えをもつ。

- ・ 物語の印象について、付箋アプリを用いて思考ツール上に自身の考えを示し、初読の印象と比較した自分の考えの根拠を明確にもてるようにする。

3 意見交流で、他者と考えを共有する。

- ・ 考えの根拠となる叙述や既習事項を想起しながら自分の考えを伝え合う中で、感じ方の違いや面白さを実感できるよう支援する。

4 作者が伝えたかったこと「作者からの宝」について自分の考えをまとめる。

- ・ これまでに学習したことや、本時で考えたことを踏まえて自分の考えをまとめるように促す。

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

作者が読み手に伝えたかったこと「作者からの宝」を粘り強く考え、進んで自分の考えを友達と伝え合う中で、その感じ方や違い等に気付こうとしている。

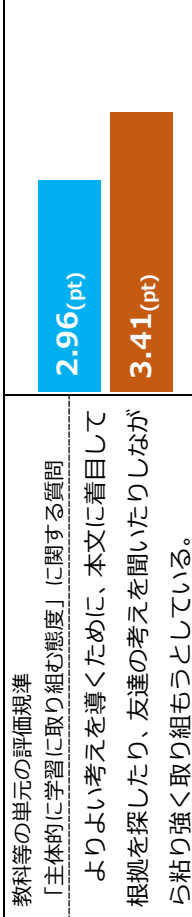
「作者からの宝」（作者が伝えたかったこと）探しにチャレンジ！

- 2 思考ツール上に自分の考えを示し、自分の考えの根拠を明確にしようとしている。
- 3 意見を交流しながら、自分の考えとの共通点や相違点を見付けようとしている。
- 4 初読の印象と他の者の考えを参考にしながら「作者からの宝」について追究しようとしている。



🔗 児童アンケートの結果 事前 事後

4件法で回答



「作者からの宝」を受け取るという言語活動の設定は、自ら作品を選び、再度作品を捉え直すという点では、児童にとってワクワク感のある探究課題であり、主体的に学習に取り組む姿につながっていた。他者交流の目的を明確にするために、思考ツールを活用し、自分の考え・立場を決めて、その根拠を事前に考える時間の設定や、宝探しの視点の明確化に、今後は取り組んでいく。

協働的な学び
自分に合った学び方

自主的・自発的な学び
体験活動、課題選択、

学んだことの意義を
実感する学び

習得段階における
深い学び

実践事例

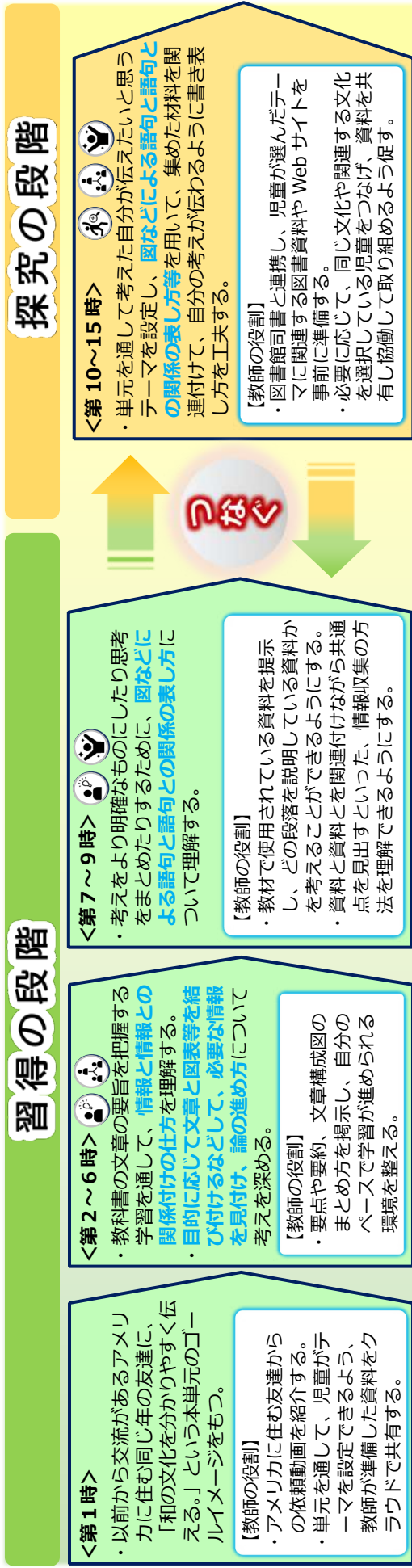
小学校 国語 第5学年 『文化を受けつぐこと』について考え、和の文化を紹介しよう』

単元の目標

※「読むこと」と「書くこと」の複合単元として、「書くこと」「読むこと」「書くこと」両方の目標を記載している。

- (1) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
- (2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。
- (3) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
- (4) 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- (5) **言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。**

4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ単元のデザイン



🔍 本時：「探究」の段階

本時の目標（第12時／全15時間） ● 学習活動 ・ 教師の役割

文章や資料を取捨選択しながら効果的な発信の仕方について考え、粘り強く作品を作り、自分の考えを伝えようとする。

- ① 前時までの振り返りをする。
 - ・ **共同編集機能**を用いて、自身の本時のめあてを記入するとともに、現在の進捗状況を黒板にネームプレートで示し、学習の見通しをもてるようにする。
- ② 作品（ポスターやパンフレット等）作りに取り組む。
 - ・ 「個人で取り組む」、「相談しながら取り組む」等、学習の進め方を自分で選択できるように学習環境を設定する。
 - ・ 自分が伝えたいことが伝えられる作品となっているが、教師が助言したり、友達から意見をもらったりするよう促す。
- ③ 本時における自分の活動を振り返る。
 - ・ ①で記入した個人のめあてに対する振り返りを記入するよう促す。
 - ・ **共有機能**を用いて友達の作品を見たり、振り返りを参照したりできるようにする。

自分で決めて、取り組み、共有する

- ① 個人のめあてを具体的に記入し、本時の見通しをもっている。
- ② 個人で進めたり友達や教師に相談したり、既習事項が載った掲示を参照する等、主体的に作品作りに取り組んでいる。
- ③ 「自分がこの時間で達成できたことは何か」、「次の時間に取り組むべき自分の課題は何か」を記入し、本時の学習を振り返っている。

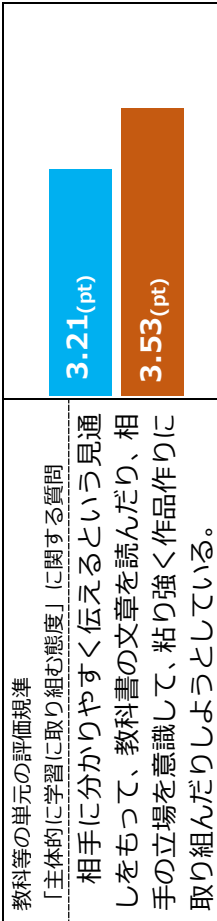


本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準
文章構成や文章中に使う言葉について考えたり、図表やグラフ、写真等を用いたりしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を試行錯誤して考え、工夫しようとしている。

🔍 児童アンケートの結果

事前 ■■■■ 事後 ■■■■

4件法で回答



探究の段階では、個人のめあてを児童自ら設定できるようにし、習得した内容を意図的に活用できるようにすることで、学習の進め方を自分で考え、個人で進めたり友達と対話したりするなど、主体的に課題に取り組む姿が見られた。今後は、単元内で身に付けた力を活用して、探究の課題を児童が設定できるように、教材や教師の指導・支援を工夫することが必要であると感じた。

協働的な学び
自分に合った学び方

自主的・自発的な学び
体験活動、課題選択、

学んだことの意味を
実感する学び

習得段階における
深い学び

探究

実践事例

小学校 社会 第6学年 「大陸に学んだ国づくり」

単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、この頃の世の中の様子を考え、表現することを通して、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子、貴族の生活や文化を手掛かりに、天皇を中心とした政治が確立され、日本風の文化が生まれたことを理解できるようにするとともに、**主体的に学習問題を解決しようとする態度**を養う。

4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ単元のデザイン

習得の段階

<第1・2時>

- ・聖徳太子の考えや、聖徳太子が天皇中心の国づくりを目指したことを理解する。
- ・聖徳太子の死後の国づくりに関心をもち、**学習問題**をつくり、学習問題の解決に向けた話し合いを通じて**学習計画**を立てる。

【教師の役割】

- ・社会的事象に対する関心を高めるため、資料を視覚的に提示する。
- ・児童一人一人の疑問を集約し、学習問題、学習計画として整理する。

<第3～7時>

- ・大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子、貴族の生活や文化を手掛かりに、**天皇を中心とした政治が確立され、日本風の文化が生まれたこと**を理解する。
- ・調べたことを**年表**にまとめる。
- ・調べたことを基に**具体的な歴史上の人物を想像し、政策や実績を表現する**活動に取り組むことで、知識をより確かなものにする。

【教師の役割】

- ・児童が自分に合った資料を選択できるように、複数の資料を準備する。
- ・授業ごとの振り返りに対し、フィードバックを行う。

探究の段階

<第8・9時>

- ・学習した時代のキヤッチフレーズを作成し、これまでに**習得した知識を基に学習問題**についてまとめ、大陸の文化と日本の国づくりを関連付けて考え、表現する。
- ・キヤッチフレーズの発表を基に**学習した時代の特徴を捉え、次の時代の予想**をする。

【教師の役割】

- ・キヤッチフレーズに使うことができそうな言葉をいくつか板書し、言葉と言葉をつなげるように助言する。
- ・予想の根拠を考えるとき、日本の中心人物や外国との関わりを目を向けるように促す。

本単元でのICTの活用

- ・デジタル教科書
- ・共有機能
- ・学習動画
- ・アンケート機能
- ・スライド機能

【本単元で重視した学習活動】

学んだことの意義を実感する学び

歴史的な社会的事象を自分事として捉えられるようにするため、振り返りの際、現代と比較して考えられるようにした。また、現代とのつながりを考えられるような発問や資料及び児童の記述方法を具体的に分かるようにした。



昔の税はお金ではなかったんだ。

📌 本時：「習得」の段階

本時の目標（第3時／全9時間） ●●● 学習活動 ・教師の役割

- ・ 聖徳太子の死後、国づくりがどのように進められたかを調べ、天皇中心の国づくりが整っていったことを理解することができる。
- ・ 自分に合った調べ方で調べ、調べたことと現代とのつながりについて考えようとする。

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

課題の解決に向けて「学習環境」や「資料」など自分に合った調べ方で調べ、調べたことと現代とのつながりについて考えようとしている。

① 中大兄皇子と中臣鎌足が行った政治について調べる。

- ・ 課題の解決に向けて学習方法や場所、活用する資料を選択できるようにする。

② 調べたことを全体で確認する。

- ・ 知識を正確に習得することができるよう、必要に応じて人物や出来事について解説する。

③ 調べたことを中大兄皇子になりきって自分の言葉で表現することで習得した知識を整理する。

- ・ インタビュー形式でやり取りをする活動を行う際、共有機能を活用し、児童の考えを共有するとともに、教師による価値付けを行う。

④ 振り返りを書く。

- ・ 大化の改新後の政治について、自分の考えをまとめ、現代とのつながりについて考えるように促す。

発見！現代とのつながり！

- ① 誰とどこで学ぶかの「学習環境」や教師が作成したプリント、動画等の「資料」など自分に合った調べ方を見付けて、調べている。
- ② 「私は蘇我氏を倒した！そして税の仕組みも作った！だけど、その税が重くて逃げていく農民もいて困っている。」などと、表現している。
- ③ 学習内容を振り返り、現代とのつながりを自分の言葉で表現しようとしている。
- ④ 学習内容を振り返り、現代とのつながりを自分の言葉で表現しようとしている。



📌 児童アンケートの結果

事前 事後

4件法で回答



学習問題を自分に合った調べ方で追究し、現代とのつながりを考えながら、解決しようとしている。

歴史的な社会的事象を現代とつなげることで、歴史を自分事と捉える児童が増えた。一方、全ての授業において現代とつなげることは難しいという課題も見られた。実践後、「学んだことの意義を実感する学び」を意識した学習活動を取り入れた授業実践を行うことで、児童が自然に現代とのつながりを発言するようになった。単元が進むにつれ、現代の様子に近づいていることも実感できていた。

協働的な学び
自分に合った学び方

自主的・自発的な学び
体験活動、課題選択

実感する学び
学んだことの意義を

習得段階における
深い学び

習得

実践事例

小学校 算数 第4学年 「小数のしくみを調べよう」

単元の目標

- (1) 小数の意味や表し方について理解するとともに、小数の加法及び減法の計算をすることができる。
- (2) 小数の表し方や数量の関係に着目し、目的に合った計算方法を用いて計算の仕方などを考察することができる。
- (3) **学習したことを基に、小数の計算の仕方を振り返り多面的に検討したりしようとする。また、数理的な処理のよさに気付かき、学習したことを生活や学習に活用しようとする。**

4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ単元のデザイン



本単元でのICTの活用

- ・スライド機能
- ・アンケート機能
- ・コメント機能
- ・共有機能
- ・数値視覚化用アプリ

【本単元で重視した学習活動】

本時の課題に対して、児童が既習事項との関連に気付くことができるよう、一人一人の学習の定着度に応じて支援を行い、自分の考えをもてるようにする。また、自分が考えた解決方法を友達に説明する活動を通して、よりよい解決方法に気付くことができるようにする。



分かった！位を揃えればこれまでの計算の仕方でも決できそうだし！

習得の段階における深い学び

- 【教師の役割】
- ・単元内の学習内容を振り返ることができるよう、学習内容をまとめたスライドを共有する。
 - ・友達のもとを見て、面白かった点や参考になった点を伝え合うよう促す。

🔍 本時：「習得」の段階

本時の目標（第8時／全13時間） ●●● 学習活動 ・教師の役割

桁数の異なる小数どうしの加法の筆算の仕方について、計算の仕方を考えようとする。

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

既習の整数や小数の加法及び減法の計算の考え方や、表し方を基に、桁数の異なる小数どうしよりよい計算の仕方を考えようとしている。

- 1 前時までの学習を振り返り、本時の見通しをもつ。
 - ・ **スライド機能**を使って既習事項を提示し、全体で確認する。
 - ・ 教師が提示する課題と既習事項を比較し、課題解決に向けた見通しをもてるようにする。
- 2 **自分の考えを表現する。**
 - ・ 既習事項と比較して考えることができるよう、**共有機能**を使って参考にしながら既習の内容をまとめるよう促す。
- 3 **自分の考えを友達と共有する。**
 - ・ 友達の考え方がよかったと思おうところをメモし、よりよい計算方法について考え、まとめるよう促す。
- 4 **本時を振り返る。**
 - ・ **共有機能**を使って個々で入力した振り返り（分かったことや疑問に思ったこと等）を、共有できるようにする。

既習事項の想起が課題解決のスタートライン

- 2 課題の解決に向けて、既習事項を基にして、解決方法を考えようとしている。
- 3 自身の考えと友人の考えを比較し、考えを伝え合うことで、よりよい計算の仕方を考えている。
- 4 本時の課題をどのように工夫して解決したか、自分の言葉で習得した内容を振り返っている。



🔍 児童アンケートの結果

事前 ■■■ 事後 ■■■

4件法で回答

教科等の単元の評価規準

「主体的に学習に取り組む態度」に関する質問

これまで学習した内容を使って、新たな問題でも、その解決の仕方について粘り強く考えたり、取り組んだりしようとしている。

3.00 (pt)

3.13 (pt)

🔍 実践の振り返り

習得の段階において、系統性を意識して、これまでに身に付けた知識等を活用して学習課題に取り組み始めるようにしたこと、算数が苦手な児童も自分の考えをもって学習を進める姿が見られた。探究の段階では、自分の興味・関心に応じた課題を設定したことで、児童が自発的に他者と関わりながら学び、生活場面とのつながりを意識して学習に取り組む姿につながった。

協働的な学び
自分に合った学び方

自主的・自発的な学び
体験活動、課題選択

学んだことの意味を
実感する学び

習得段階における
深い学び

実践事例

小学校 理科 第6学年 「てこのはたらき」

単元の目標

加える力の位置や大きさに着目して、これらの条件としてこの働きとの関係を多面的に調べる活動を通して、てこの規則性についての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、主により妥当な考えをつくりだす力や**主体的に問題解決しようとする態度**を育成する。

4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ単元のデザイン

習得の段階

<第1・2時>

- 下級生が、てこを利用した道具をうまく使えていない様子を見て、学級全体で「下級生に道具の上手な使い方を教えよう。」という単元の課題をつくる。

【教師の役割】

- 下級生がトンブ(1年生)・はさみ(2年生)・くぎ抜き(3年生)を使う学校生活の様子を事前に撮影し、動画で提示する。
- 単元を通して追究したいてこを利用した道具を選択し、学習計画を立てる場を設定する。

<第3～5時>

- 「実用てこ」を使っておもりを持ち上げる実験を通して、**支点・力点・作用点の位置関係によって、おもりを持ち上げるために必要な力の大きさが変わること**について、より妥当な考えをつくりだし、理解する。

【教師の役割】

- 支点(緑)、力点(赤)、作用点(青)の3色シールが付いた実験器具を用意し、量的・関係的な視点で考えることができるようにする。
- 一人一教材を使って、考察したり伝え合ったりすることで、実感に伴った理解ができるようにする。

<第6～8時>

- 「実験用てこ」を使った実験を通して、**てこがつり合うときの規則性**について、より妥当な考えをつくりだし、理解する。

【教師の役割】

- 3色シールが付いた実験器具で、量的・関係的な視点で考えることができるようにする。
- 一人一教材を使って、「手ごたえ・力の大きさ」と「おもりの重さ」を関連付けて考えることができるようにする。

<第9～12時>

- 単元の導入で選んだ追究したいてこを利用した道具について、習得した**支点・力点・作用点の位置関係によって、おもりを持ち上げるために必要な力の大きさが変わること**等を踏まえて、トンブ・はさみ・くぎ抜きの効果的な使い方を考え、下級生に伝える。

【教師の役割】

- トンブ・はさみ・くぎ抜きを人数分用意し、試しながら、てこを利用した道具の使い方を考えることができるようにする。
- 3色シールが付いたてこを利用した道具を使い、習得の段階で学んだことを意識できるようにする。

探究の段階

本単元でのICTの活用

- 動画撮影機能
- アンケート機能
- 表計算ソフト
- スライド機能

【本単元で重視した学習活動】

体験活動、課題選択、自主的・自発的な学び

単元の導入で「下級生に道具の上手な使い方を教えよう。」という学級全体の課題をつくり、追究したいてこを利用した道具を選択する場を設定し、学習の目的を意識しながら学び続けることができるようにする。また、実験器具や一人一教材、てこを利用した道具など、常に実物で確かめながら実感をもって理解できるようにする。



下級生が
上手に・安全に
使えるように。

📎 本時：「探究」の段階

本時の目標（第9時／全12時間） ● ● ● 学習活動 ・ 教師の役割

既習事項を基にここが利用された道具の効率的な使い方を考えようとする。

- ① 前時までの学習を振り返る。
・ **スライド機能**を使って既習事項を確認する。
・ 一人一教材やてこを利用した道具を用いて、今までに学んだ、支点、力点、作用点とその位置関係についてペアで説明し合うように促す。
- ② 同じ道具を選択したグループで効率的な使い方を話し合う。
・ 支点(緑)、力点(赤)、作用点(青)のシールを用いて、てこを利用した道具の使い方が考えられるようにする。
- ③ てこを利用した他の道具を選択したグループの児童と分かっただとを伝え合う。
・ 目的が、「考えを整理し、自分がどこまで理解できているかを確認すること」であることを確認する。
- ④ それぞれのてこを利用した道具の使い方を全体で共有する。
・ 支点、力点、作用点とその位置関係について触れて考えられている発表を価値付ける。
- ⑤ てこを利用した道具の使い方についてまとめる。
・ 言葉や図を用いて本時で分かっただとやまだ分からないことを記録するように促す。

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

てこの規則性について分かっただとなどを整理して、学んだことを自身や他者の日常生活と関連付けて考えようとしている。

見て・触って・考えて「てこ」の達人！

- ① 一人一教材などを用いて、既習事項を基にてこの規則性を説明している。
- ② てこを利用した道具を操作しながら「支点、力点、作用点」という言葉を使って、その位置関係に関連付けて話し合っている。
- ③ 単元を通して「分かっただ」と「まだ分からないこと」を書き溜めてきた「てこノート」に、本時の発見を記録している。

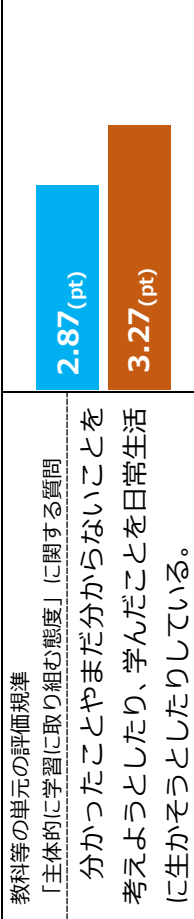


📎 児童アンケートの結果

事後

事前

4件法で回答



「下級生にてこを利用した道具の使い方を教える」という単元のゴールを設定し、「分かっただ」と「まだ分からないこと」を継続的に記録することで、目的意識をもって取り組み続けることができた。支点、力点、作用点の色を決め、単元を通して一人一教材やてこを利用した道具に3色シールを付けたことで実感を伴って理解することができた。今後は、記録の方法や量及びタイミングを精選し、実験する時間を十分に確保していく。

協働的な学び
自分に合った学び方

自主的・自発的な学び
体験活動、課題選択、

学んだことの意味を
実感する学び

習得段階における
深い学び

探究

実践事例

小学校 生活 第1学年 「あきとなかよし」

単元の目標

秋の自然を見つけたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりして、秋の自然の様子や夏から秋への変化、秋の自然物を利用して遊びの面白さに気付くとともに、**季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしようとしたり、皆と楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。**

4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ単元のデザイン

*本研究では、生活科を総合的な学習の時間につながる「探究の基礎」として位置付け、小単元の振り返りでの「気づき」を「習得」として捉えた。

探究の段階

- <第1～5時> 夏探しや夏遊びを振り返り、季節の変化を遊びや秋探しの中から**諸感覚を使って感じ取る**。
- <第7～10時> 秋探しを使って、遊びや遊びに使うものなどを**工夫して作ったり、様々な発見をしたりして、秋を楽しむ**。
- <第12～15時> 秋探しや秋遊びを振り返り、**皆と楽しみながら「秋のおもちゃランド」の計画・準備をし、幼稚園児を招待して、「秋のおもちゃランド」を開く**。

【教師の役割】

- ・既習の春や夏の計画・準備・遊びを画面投影機能や掲示物等で視覚的に示し、学習の見通しをもつことができるようにする。
- ・教師と一緒に遊んで遊び、秋を感じるような声掛けや気付きを言語化できるようにする。
- ・年間を通して、季節の変化を感じることができるよう、様々な道具や材料を自由に活用できる「生活科ひろば」を設置する。

習得の段階

- <第6時> 秋探しで見付けたことを伝え合い、**季節の違いやその特徴に気付き、秋探しにつなげる**。
- <第11時> 秋遊びを振り返り、その面白さに気付き、「**秋のおもちゃランド**」につなげる。
- <第16時> 「秋のおもちゃランド」を振り返り、**皆で遊ぶと生活が楽しくなることを実感する**。

【教師の役割】

- ・春や夏の違いに着目できるように声掛けを行う。
- ・友達の見解を参考に考えを広げられるように、画面投影機能や掲示物で気付きを共有できるようにする。
- ・秋探しや秋遊びの様子を撮影した動画や写真を蓄積し、振り返ることができるようにする。

本単元でのICTの活用

- ・画面投影機能
- ・アンケート機能
- ・学習動画
- ・二次元コード機能
- ・デジタル教科書
- ・スライド機能
- ・撮影機能

【本単元で重視した学習活動】

「児童自らが選ぶ・考える・決める」ことができる「生活科ひろば」を設置し、体験活動を行う。また、秋の特徴を予想したり、試してみたいことを考えたりして、「もっとやりたい」という思いや願いをもてるようにする。



どうなっているんだろう。

体験活動、課題選択、自主的・自発的な学び

🔍 本時：「探究」の段階

本時の目標（第1時／全16時間） ●●● 学習活動 ・教師の役割

夏の自然の様子や夏遊びを振り返り、秋の自然の特徴を予想したり、してみたいことを考えたりして、秋探しや秋遊びへの意欲を高めることができるようにする。

- **春や夏の自然の特徴や遊びについて振り返る。**
 - ・ 「春」「夏」の季節において行った生活科の学習や遊びを振り返り、本単元の流れをイメージできるようにする。
- **個人・グループで「秋」について想起するものや学校でやりたいことを考える。**
 - ・ 「秋といえぱ」「秋に学校でやりたいこととは？」という二つの視点から、思い浮かべることや、やりたいことを話し合うことができるようにする。
- **秋に関わる自然や遊びを調べ、体験する。**
 - ・ 秋の身近な自然を観察したり、身近にあるものを使ったり、**二次元コード機能や学習動画**を活用したりすることができる「生活科ひろば」を設定する。
- **グループ・個人の考えを全体で交流し、共有する。**
 - ・ 秋の特徴や秋にやりたいことについて、体験したり、考えたりしたことを紹介し合うよう促す。
- **次時の活動と今単元のゴールを確認する。**
 - ・ 「秋のおもちゃランド」を開き、幼稚園児を招待するために今後何をしていくか確認する。

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

秋の自然を楽しみたいという思いや願いをもって、秋の自然の特徴を予想し、秋探しの見通しをもとととしている。

ワクワク ドキドキ あきを見つけたよ！

- 秋の特徴や秋に学校でやりたいことをグループで話し合っている。
- 「生活科ひろば」で興味のあることを観察したり、体験したりしている。
- 秋の自然を楽しみたいという思いや願いを交流している。



🔍 児童アンケートの結果

事前 ■■■■ 事後 ■■■■

4件法で回答



授業外でも自然物に触れられ、体験活動ができる「生活科ひろば」を設置したことで、日常生活の中から「もっと秋を見附けたい」という思いを引き出すことができた。「楽しい・面白い」から、どのように「めあて」を意識して学習活動に取り組むことができるようにするかが今後の課題である。今後も、体験活動の時間を十分に確保し、予想と振り返りを繰り返す中で、気付きの質を高めることができるようにしていく。

👥 協働的な学び
自分に合った学び方

👤 体験活動、課題選択、自主的・自発的な学び

👤 学んだことの意味を
実感する学び

👤 習得段階における
深い学び

🔍 探究

👤 実践事例

小学校 音楽 第4学年 「いろいろなリズムを感じ取ろう」

🎯 題材の目標

- (1) 曲想とリズムや拍などの音楽の構造との関わりや、言葉のリズムのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと一緒に考えて気付けるとともに、反復や変化、呼びかけとこたえを用いてリズムアンサンブルをつくる技能を身に付ける。
- (2) リズム、拍、反復、呼びかけとこたえ、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、音楽の聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) **拍子やリズムが生み出すよさや面白さに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽、音楽づくりの学習活動に取り組む、音楽に親しむ。**

🎯 4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ題材のデザイン

習得の段階

<第1・2時>

- ・リズムアンサンブルを学習する活動を通して、**曲想と音楽の構造との関わり**について理解するとともに、**音楽の仕組み**を用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。

【教師の役割】

- ・既習のリズムや楽譜を視覚的に示す。
- ・録画した互いの演奏から、拍感を感じ取って音を含ませる意識をもてるよう指導する。

<第3・4時>

- ・手拍子のアンサンブルからなる器楽教材を通して、音楽を形づくっている要素を聴き取り、**それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、まとまりを意識した音楽をつくること**について考える。

【教師の役割】

- ・音楽の仕組みを生かした演奏ができるよう色分けしたリズム譜を掲示する。
- ・これまでに習得した音楽の仕組みや音楽づくりのプロセスを確認する。

探究の段階

<第5～7時>

- ・自分が表現したいテーマを考え、これまでに習得した**音楽の仕組みや音楽づくりのプロセス**を踏まえて、**まとまりを意識した8小節のリズムアンサンブル**をつくる。

【教師の役割】

- ・音楽の仕組みを生かしながら音楽づくりができるよう、掲示物や音楽制作アプリを使って支援する。
- ・自分の考えを伝えたり友達の意見を聞いたりしながら音楽づくりをするよう声掛けをする。
- ・友達がつくった音楽の仕組みの使い方、工夫した点を見つけて聴くよう促す。



本題材でのICTの活用

- ・デジタル教科書
- ・学習動画
- ・楽曲の構造分析機能
- ・共有機能
- ・音楽制作アプリ

【本題材で重視した学習活動】

リズムアンサンブルを演奏する活動を通して、音楽の仕組みを視覚的に捉え、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じることができるようになる。まとまりを意識した音楽にするためには、どのように演奏すればよいかを考え、思いや意図を共有できるようにする。



このリズムが気に入った！これを繰り返し作ろうかな。

習得の段階における深い学び

🎨 本時：「習得」の段階

本時の目標（第4時／全7時間） ●●● 学習活動 ・教師の役割

繰り返しや変化を使ってリズムアンサンブルをつくり、リズム、拍、反復、呼びかけとたえ、変化の働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取る。

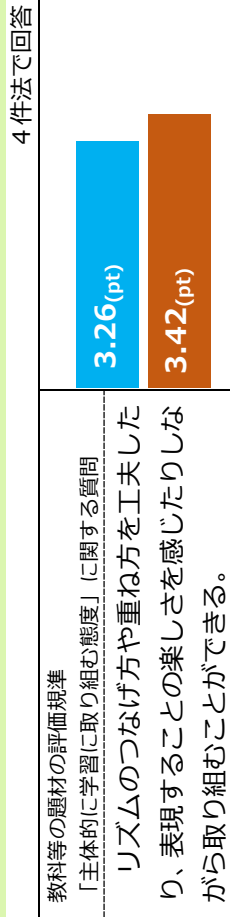
- ① 前時までの学習を振り返る。
 - ・リズムアンサンブルをつくるために、前時までに学習した内容を全体で確認し、本時の見通しがもてるようにする。
- ② 教師が設定したテーマで、ペアでリズムアンサンブルをつくる。
 - ・これまでに習得した音楽の要素や仕組み、掲示物等を活用し、音楽づくりをするよう促す。
- ③ 作品を共有し、互いの作品を聴き合い、よい点を伝え合い、再考する。
 - ・音楽の仕組みの使い方、友達の作品のよいところや工夫している点を見付けるよう助言し、共有機能を使って友達の意見を踏まえて再考するよう促す。
- ④ これまでの学習を振り返る。
 - ・分かったことや気付いたことをまとめようように促す。
 - ・本時までに習得した音楽の仕組みや音楽づくりについて全体で確認し、学習した内容を見直せるようになるよう促す。

リズムだけでもこんなに違う！ 音楽の仕組みって面白い！

- ② これまでに習得した音楽の要素や仕組みを使って、友達と進んで音楽づくりをしている。
- ③ 友達の作品を聴き、よいところや工夫している点を見付けようとしている。
- ④ これまでに習得した内容を自覚し、探究の見直しをもとうとしている。



🎨 児童アンケートの結果



🎨 実践の振り返り

成果は、常時活動やリズムアンサンブルを通して音楽の要素や仕組みの定着を図ったことで、それらを活用して自分の思いや意図を表現し、工夫して音楽づくりをしようとする姿が見られたことである。タブレット型端末を効果的に活用することで、友達との関わり合いの中で互いのよさや違いに気づき、よりよい作品をつくらうとする姿勢につながった。今後も、児童が表現することの楽しさを感じながら主体的に学習を進めることができるよう、教師の役割を考えたい。

協働的な学び
自分に合った学び方

自主的・自発的な学び
体験活動、課題選択

学んだことの意味を
実感する学び

習得段階における
深い学び

実践事例

小学校 図画工作 第6学年 「自由なスチロール」

🎯 題材の目標

- (1) 自分の感覚や行為を通して、スチロールの形や色などの組み合わせによる感じや造形的な特徴を理解する。表したいことに合わせて材料や用具を活用し、前学年までの経験や技能を総合的に生かしたり方法を組み合わせた方法を用いたりして手や体全体を十分に働かせ、工夫して立体に表す。
- (2) スチロールを切り接合したり接着したりするなどの行為を基に、自分のイメージをもち、表したいことや主題を思い付き、全体や材料の形や色、組み合わせ、バランスなど、どのように表すかについて考える。自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、主題、表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- (3) **材料のよさや表したいことなどを見付けよう、スチロールの形や色、質感などを理解したり変化させたりする活動に主体的に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。**

🎨 4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ題材のデザイン

習得の段階

<第1・2時>

- ・スチロールの形を変化させたり組み合わせたりする活動を通して、**造形的な特徴を理解する。**
- ・試したことを基に、**表したいことや主題を思い付いたり発想・構想したりする。**
- ・発想・構想を基に**表し方を考え、材料や用具の使い方を身に付けたり、表したいことに合わせて工夫して使ったりできるようにしながら表す。**

【教師の役割】

- ・題材についてプレゼンテーションし学習の見通しをもてるようにする。
- ・十分に試せる材料や用具を準備する。
- ・安全に用具を扱えるよう環境を整える。
- ・児童の活動を記録し、写真等で提示することによって、既習事項を共有する。
- ・表したいことや主題について児童と対話し、児童が課題を発見できるようにする。

探究の段階

<第3～8時>

- ・表したいことや主題に向かって、自分が設定した課題を**確認**することを繰り返しながら、習得した**材料の特徴や用具を扱うなどの技能や工夫**を生かして立体に表す。
- ・自分や友達作品を鑑賞し、見方や感じ方を広げる。

【教師の役割】

- ・既習事項と各々の児童の課題解決とをつなぐために対話して支援する。
- ・毎時間の成果を写真に記録させ、次回の学習で「自分が何をしたいか」という課題をもてるようにする。

本題材でのICTの活用

- ・アンケート機能
- ・画像編集機能
- ・スライド機能
- ・検索機能
- ・プレゼンテーション機能
- ・撮影機能

【本題材で重視した学習活動】

毎回の授業開始時に自分の課題が何かを問い、自分が何をす
るのか、どう解決するのかなどを考えることで、学びを自分事
として捉えることができるようにする。解決については、既習
事項、友達との活動から学ぶ、教師との対話など、これまでの学
び方を想起できるようにする。

自分に合った学び方、協働的な学び



どこをどう
つくりかえ
ようかな。

🔍 本時：「探究」の段階

本時の目標（第6時／全8時間） ●●● 学習活動 ・教師の役割

表したいことを表す活動を通して、材料を切ったり組み合わせたリ繰り返して取り組もうとしたり、より複雑な行為に挑戦しようとしたり、他者との対話を基に解決の方法を探ったりして、学習を調整しながら粘り強く課題を解決しようとする。

① 前時までの学習を振り返る。

- ・ 制作途中の作品や制作の過程について、**撮影機能**を使用して提示したり、児童一人一人と対話し、課題を関連付けたり比較したりできるようにする。
 - ・ 児童が個人で自分の活動や制作を振り返りをしやすくするために、本時の課題を確認するとともに、見直しをもてるようにする。
- ## ② つくり、つくりかえ、またつくる活動を通してながら、自分が表したいように作品を制作する。
- ・ 児童が設定した課題を探究するために、習得した技能を生かしたり、工夫したりして立体に表すことができるよう学習環境を整える。
 - ・ 友達の活動を見たり対話したりして、解決方法を探る手だてを助言する。

③ 本時の学習を振り返る。

- ・ **撮影機能**を使用して、制作途中の作品を記録することを助言したり、学習を通して大切だと感じたことを価値付けたりする。

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

自分が何をするか課題を捉え、習得した材料の特徴や技能を生かしたり、他者との対話を通して解決の方法を探ったりしようとしている。

今日の学びを自分で選び、自分で決める

- ① 自分の前時の活動を振り返り、表したいことや主題を表すために何をどうするか考えている。
- ② 自分の課題の解決について、既習事項を生かそうとしている。
- ③ 友達の活動を見たり対話したりして、よりよい解決の方法を探ろうとしている。

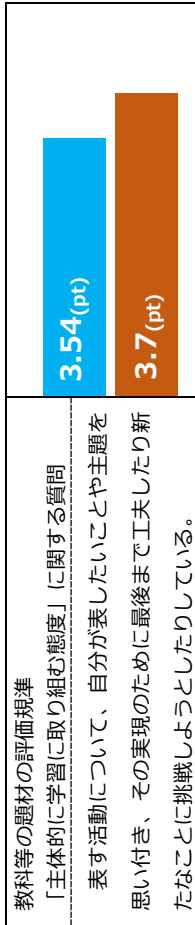


🔍 児童アンケートの結果

🔍 実践の振り返り

事前 ■■■■ 事後 ■■■■

4件法で回答



習得の段階の充実と定着に、題材指導の重点を置く意義を理解できたことが成果である。何をどのように習得させるかを教師が明確にし、探究の段階において、児童が表したいことに合わせて工夫できるようにした。そうしたことで、材料を切ったり、友達によりよい解決方法を聞いたりするなど、学習を調整しながら粘り強く取り組む姿が見られた。

協働的な学び
自分に合った学び方

体験活動、課題選択、自主的・自発的な学び

学んだことの意味を
実感する学び

習得段階における
深い学び

探究

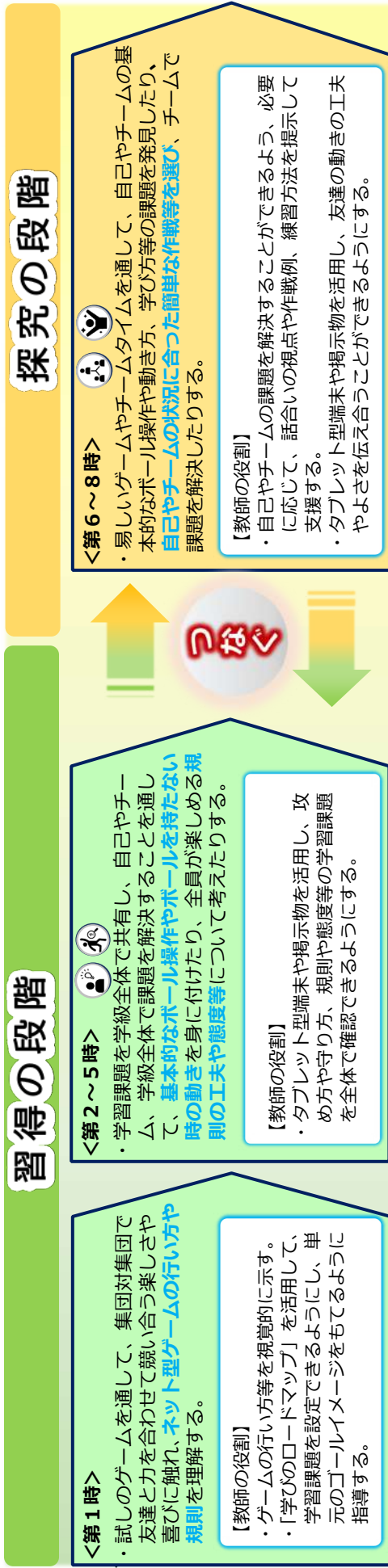
実践事例

小学校 体育 第3学年 ゲーム (ネット型ゲーム)「フロアボール」

単元の目標

- (1) ネット型ゲーム (フロアボール) の行い方を知るとともに、易しいゲームをすることができるようにする。
- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
- (3) **運動に進んで取り組み、規則を守り誰とも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。**

4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ単元のデザイン



本単元でのICTの活用

- ・ スライド機能
- ・ 共有機能
- ・ 共同編集機能
- ・ 学習動画
- ・ 撮影機能

【本単元で重視した学習活動】

ゲームやチームタイム等の活動を通して、自己やチームの課題解決を図るために、動作や言葉、絵図、タブレット型端末を用いて記録した動画等を活用する。これにより、自己や友達の動きの工夫を伝え合ったり、友達のよい動きや考えを互いに共有したりすることができるようにする。



空いているスペースにアタックするとよいね。

自分に合った学び方、協動的な学び

🔍 本時：「探究」の段階

本時の目標（第6時／全8時間） ●●● 学習活動 ・教師の役割

- ・ チームの特徴を生かした、簡単な作戦を選ぶことができるようにする。
- ・ ネット型ゲームに進んで取り組もうとする。

本時の「主体的に学習に取り組み態度」の評価規準

自己やチームの課題解決に向けて、自分の考えや工夫したことを友達に伝えたり、友達のよい動きや考えを認めたりしながら、協力して活動に取り組もうとしている。

① 本時の学習内容を確認する。

- ・ 前時までの学習内容を想起したり、チームタイムやゲームの進め方について確認したりする。
- ② **チームタイム1 → ゲーム1に取り組み。**
 - ・ 前時に選んだ作戦について話し合い、作戦に合った練習を行うよう指導する。
 - ・ 必要に応じて**撮影機能**を使用し、ゲームの様子を記録し、チームタイムの振り返りに生かすようにする。

③ チームタイム2 → ゲーム2に取り組み。

- ・ 必要に応じて作戦を修正したり、見付けた課題に応じた練習をしたりするように促す。
- ・ 作戦が上手くいかなかったチームには、その原因と改善点が明確になるような言葉掛けを行う。

④ 本時の振り返りを行い、次時の作戦等を考える。

- ・ 学びのロードマップを基に、作戦の成果と課題を振り返り、次時に生かせるように価値付ける。

みんなでキヤッチ、みんなになつないだ、学びのアタック

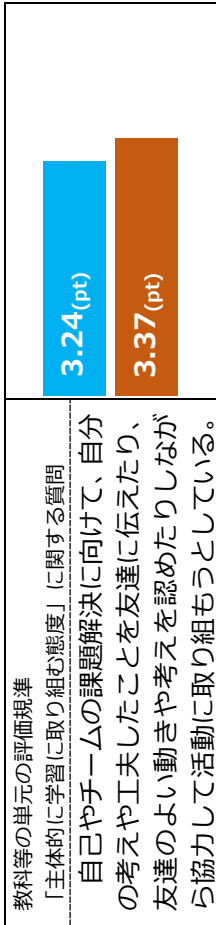
- ② 作戦を意識したり、友達の動きをよく見たりしながら、進んで声を掛けながらゲームをしている。
- ③ 習得したことを活用し、自己の動きの工夫や友達の良い動きについて伝え合おうとしている。
- ④ 学びのロードマップを基に、作戦の成果と課題を振り返り、次時の作戦やチームタイムの活動を考えたりしている。



🔍 児童アンケートの結果

事前 事後

4件法で回答



児童が習得した知識・技能や学び方を生かして、協働的にゲームやチームタイム等に取り組むことができた。学びのロードマップを活用したことで、学びが自分事となり、児童から学習方法を提案したり、休み時間にフロアボールに親しんだりする姿が見られた。課題は自分に合った学び方へとつながる教師から一人一人への言葉掛けと掲示物の工夫である。

協働的な学び
自分に合った学び方

自主的・自発的な学び
体験活動、課題選択、

実感する学び
学んだことの意味を

深い学び
習得段階における

探究

実践事例

小学校 外国語活動 第3学年 「I like blue. (Let's Try! 1)」

単元の目標

色の言い方や好みを表したり、好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、相手に伝わるように工夫しながら、友達のことを知るために、自分の好みを紹介することができる。

4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ単元のデザイン

習得の段階

<第1・2時>

- ・色や好きなものを表す表現を知る。
- ・英語の音声やリズムなど、日本語との違いに気付くとともに、色や好きなものを表す表現に慣れ親しむ。

【教師の役割】

- ・1単位時間の流れ、単元の流れを提示し、学習の見通しをもてるようにする。
- ・繰り返し音声を聞かせ、音のリズムを確かめながら活動を行う。
- ・色や物に関する映像を見ながら、好みを尋ねる表現の練習をする。

<第3時>

- ・友達のことをもっと知るために、好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみながら、他者と好みを伝え合う。

【教師の役割】

- ・自分の好みを表す表現を使ったゲームを取り入れ、慣れ親しむことができるようにする。
- ・活動への取り組み方を明確にし、児童が自ら目的をもって活動に取り組むことができるようにする。

探究の段階

<第4時>

- ・自分の好みについて相手に伝えるための表現について、自分のこれまでに慣れ親しんだ表現を用いて、相手に伝わるように工夫しながら、自分の好みを紹介する。

【教師の役割】

- ・児童に、自分たちのやり取りの様子をタブレット型端末で撮影するように指導し、練習や振り返りで活用するよう助言をする。
- ・相手によりよく伝わる工夫について、全体で身に付けさせたい力のポイントとなる表現をしている児童を取り上げ、価値付けをする。

つながり

本単元でのICTの活用

- ・デジタル教科書
- ・カメラ機能
- ・投影機能
- ・動画撮影機能
- ・録音機能

【本単元で重視した学習活動】

児童一人一人が、学習の目的や本単元を学ぶことの良さを理解した上で、意欲的に活動に取り組めるように、インプットとアウトプットのバランスを調整しながら、他者とのやり取りの場面を多く取り入れた。また、単元の目標「友達のことを知る」を児童の発言を大切にして、共に設定した。

【本単元で重視した学習活動】



へえ！
そうなんだ！

📖 本時：「習得」の段階

本時の目標（第3時／全4時間） ●●● 学習活動 ・教師の役割

友達のことをもっと知るために、好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、好みを伝え合おうとする。

- ① 前時までの学習を振り返り、めあてを設定する。
 - ・ デジタル教科書を活用し、前時までに学習した表現や英単語をリズムに合わせて発声できるようにする。
 - ・ 本時のめあてを確認し、個人のめあてを設定できるようにする。
- ② 示されたお題に対して自分の好みを答えながら、答えが同じ児童が集まる場所に移動する。
 - ・ 教師と児童で数回やり取りをした後、児童同士での活動に切り替える。
 - ・ 児童が目的をもつて友達の好みを尋ねられるように、テーマを絞った活動を行い、好みが同じ友達を見付けることができるようにする。
- ③ 友達にインタビューし、好みと同じ友達を探そう。
 - ・ 児童同士のやり取りの質を向上させるために、意図的に児童を取り上げ、児童がやり取りのポイントに気付けることができるようにする。
- ④ 本時のめあてを確認し、次時に向けてよりやり取りとなるよう振り返りを行う。
 - ・ 本時までに学習したやり取りの表現や、本時のめあてを全体で確認し、学習した内容を児童が自覚できるようにする。
 - ・ 本時の取組を価値付け、次時への意欲を高める。

私は！あなたは？好きなものな〜んだ？

② 第1・2時までに慣れ親しんだ表現を使って、全体（友達）に向けて好みを尋ねたり、自分の好みを答えたりしている。



③ 友達のことをもっと知るために、自ら進んで友達にインタビューし、好みと同じ友達を見付けようとしている。



④ これまでに慣れ親しんだ内容を確認し、友達のことをもっと知るためにはどうしたらよいか、考えようとしている。



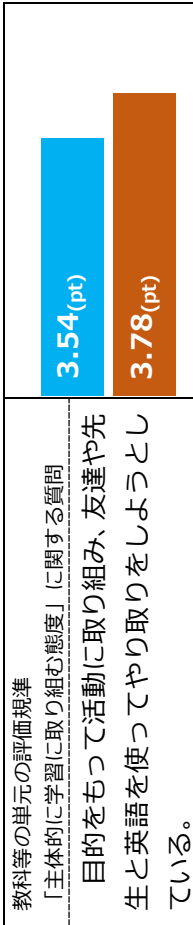
本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

友達のことを知るために、友達の好きな色や食べ物、スポーツなどについての話を聞いて、意味を分かろうとしている。

📊 児童アンケートの結果

事前 事後

4件法で回答



🔄 実践の振り返り

児童にとって身近で学んだことの意義を実感できる学習課題・目標を設定したことで、児童の学習に対する意欲や思考力・表現力の向上につながった。一方で、他者とコミュニケーションを図ることが苦手な児童が多い場合は、タブレット型端末の活用や個に応じた適切な支援や声掛けが必要だと分かった。本時のような授業を継続することで、児童はより学ぶ目的と目標を明確にもちながら、自ら進んで学習に取り組むようになっていく。

協働的な学び
自分に合った学び方

自主的・自発的な学び
体験活動、課題選択

実感する学び
学んだことの意義を

習得段階における
深い学び

実践事例

小学校 総合的な学習の時間 第6学年 「自己の生き方を考える～6年生の役割は～」

単元の目標

地域や学校の中で自分の長所を生かした探究的な活動に取り組むことを通して、地域や学校の中で果たす自分の役割を理解し、**他者や社会と積極的に関わりながら、自己の生き方について考え、将来の夢や目標に向かって成長していくことと**することができるようにする。

4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ単元のデザイン

習得の段階

<第1～10時>

- 探究的な活動に取り組むことを通して、探究課題の設定の仕方や学習計画の立て方、取材の仕方や必要な情報の集め方、情報の整理の仕方等自身に付ける。

【教師の役割】

- 探究的な学習の進め方を提示し、見返すことができるようにする。
- 学校の様々な活動と関連させることで、実感を伴って理解し、身に付けることができるようにする。

探究の段階

<第11～30時>

- 自分の長所を生かして学校の中でできる探究課題を設定する。
- 自分で立てた学習計画に沿って探究活動に取り組む、成果や課題、自己の成長を実感する。

【教師の役割】

- 「なりたいたい自分」、「学校の課題」、「清瀬の課題」、「清瀬のアイデア」をタブレット端末に入力したり掲示したりして蓄積したりして、必要に応じて見返すことができるようにする。
- 単元ごとの振り返りをタブレット端末に保存し共有することで、自己の成長を実感したり、友達と伝え合ったりできるようにする。

<第31～50時>

- 自分の長所を生かして地域の中でできる探究課題を設定する。
- 自分で立てた学習計画に沿って探究活動に取り組む、成果や課題、自己の成長を実感する。

【教師の役割】

- 発表資料を作成する際、自己評価や他者評価を行う活動を取り入れることで、自己の成長を実感できるようにする。

<第51～70時>

- これからの自己の生き方について考えたことをまとめ、表現することを通して、地域や学校の中で果たす役割や自己の成長を自覚し、将来の夢や目標に向かって成長していくこととする。

【将来】

本題材でのICTの活用

- 投影機能
- 共有機能
- 共同編集機能
- 検索機能
- 学習履歴の蓄積機能
- アンケート機能
- スライド機能
- コメント機能

【本単元で重視した学習活動】

体験活動、課題選択、自主的・自発的な学び

学校や地域で、自分の長所を生かした活動に取り組む体験活動を通して、興味・関心に応じた活動を選択し、地域や学校の中での自分の役割や自己の成長を実感できるようにする。また、単元ごとに振り返りや他者評価を行う中で、自己の成長を実感できるようにする。



学校や地域で、自分でできることは？

🔍 本時：「探究」の段階

本時の目標（第15時／全70時間） ● 学習活動 ・ 教師の役割

既習事項の探究的な学習の進め方を生かして、学習の方法を工夫したり選択したりしながら、他者と協力してよりよい学習計画を立て、「なりたいたい自分」に向かおうとする。

- ① 自分のプロジェクト計画を振り返る。
 - ・ よりよい計画の視点として、「実現可能」「なりたいたい自分に向かう」「これまでの学習を生かす」があることを確認する。
- ② 同じプロジェクトを考えている友達と、よりよい計画にする方法を話し合う。
 - ・ 必要に応じてよりよく学習計画を修正している例を全体で共有し、価値付ける。
- ③ 「なりたいたい自分」に近づくために改善したプロジェクト計画を、別のプロジェクトを考えている友達に伝えるときも、アドバイスをし合う。
 - ・ 話し合いの目的が「違う視点からアドバイスをし合い、よりよい計画をつくること」であることを確認する。
- ④ 互いに振り返りを共有し、次時からの活動の見通しをもつ。
 - ・ 本時を通して「なりたいたい自分」に近づくプロジェクトに近づいたのか、共有機能を使得ってよりよい計画の視点から振り返り、共有できるようにする。

「なりたいたい自分」へプロジェクト発動！

- ② 既習事項を生かして、探究課題を解決するための学習計画を立てようとしている。
- ③ 「なりたいたい自分」を踏まえて、友達とアドバイスをし合うことで、よりよい計画にしようとしている。
- ④ 互いに振り返りを共有し、次時からの活動の見通しをもっている。

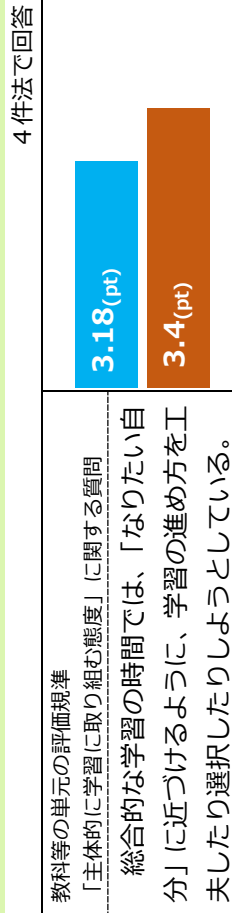


本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

既習事項である探究的な学習の進め方を生かして、学習の方法を工夫したり選択したりしながら協力して活動に取り組む、**「なりたいたい自分」**に向かおうとしている。

🔍 児童アンケートの結果

🔍 実践の振り返り



実践を振り返って、成果は、自分の興味・関心や「なりたいたい自分」に基づいて活動内容を考えることができていたこと、課題は活動を実行するために今何をすべきか考え計画的に行うことである。実践後も、学校や地域の中でできる体験活動を重視したことで、自分の長所を生かした探究的な学習を通して自己の成長を実感することができた。今後も、児童が興味・関心に応じた課題や活動を選択できる学習活動を意図的に設定していく。

協働的な学び
自分に合った学び方

自主的・自発的な学び
体験活動、課題選択、

実感する学び
学んだことの意義を

深い学び
習得段階における

探究

実践事例

中学校 国語 第1学年 「心の動き 大人になれなかった弟たちに…」

単元の目標

- (1) 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて描写を基に捉えることができる。
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにし、他者と交流することで自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- (4) **言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。**

4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ単元のデザイン

習得の段階

<第1・2時>

- ・ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉える。
- ・ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える。

【教師の役割】

- ・ 文学的文章の解釈方法を身に付けるため、多様な方法を試す場を設定する。
- ・ 生徒の解釈をコメント共有機能で集約し、文章内容を整理できるようにする。

<第3時>

- ・ 文章を読んで理解した場面の展開や登場人物の相互の関係、心情の変化などに基づいて、意見を共有し、自分の考えを確かなものにする。

【教師の役割】

- ・ 学習教材を選択できるようにし、考えの根拠を多様な視点から整理するよう指導する。
- ・ 振り返りを確認し、文章内容の理解度に応じてフィードバックを行う。

探究の段階

<第4時>

- ・ 現代の生活と戦争とのつながりを考えるために、習得した文章の解釈方法を活用して探究していく。
- ・ 自分の考えを他者と交流することを通して、自分のものの見方や考え方を広げる。

【教師の役割】

- ・ 現代にもつながる要素を整理するように助言する。
- ・ 多様な視点から考えるとき、中心人物の人物像や時代背景を踏まえて現代と比較するように促す。

本単元でのICTの活用

- ・ 共有機能
- ・ スライド機能

【本単元で重視した学習活動】

戦争に関連する作品の内容を自分事として捉えられるようになるため、習得の段階で、心情の変化や人物像を解釈する多様な方法を示した。また、探究の段階で、現代の生活と比較することでものの見方や考え方を広げられるように工夫した。



戦争の出来事は自分たちにもつながっているんだ。

学んだことの意義を実感する学び

📖 本時：「習得」の段階

本時の目標（第3時／全4時間） ● 学習活動 ・ 教師の役割

- ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、題名に込められた意味について考える。
- ・ 他者と交流することを通して自分の考えを確かなものにしようとする。

- ① **中心人物の人物像について、人物や場面設定、関わりや出来事に着目し、心情の変化や言動の意味を踏まえて考える。**
 - ・ 活用する資料を選択できるようにする。

- ② **班活動で考えたことをまとめる。**

- ・ **共有機能**を活用し、生徒の考えを共有し、他者参照できるようにする。

- ③ **理解した文学的文章の内容をワークシートへの記述によって表現する。**

- ・ **スライド機能**を活用して評価基準を提示して説明し、記入内容を確認できるようにする。

- ④ **学習のまとめを書く。**

- ・ 単元や本時の学習内容について、目標の達成度を考える際、文学的文章の解釈方法を学ぶ意義や現代とのつながりについて考えるように促す。また、これまで学習したことや本時で考えたことを踏まえて自分の考えをまとめられるようにする。

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

戦争に関連する内容の解釈や現在とのつながりを考えるために、題名に表れている2つの意味を複数の着目する視点を基に考え、自分の考えを確かなものにしようとしている。

自分事として考える！

- ① **着目すべき学習の視点を基に中心人物の人物像について考えている。**



- ② **共有機能を活用し、他者参照しながら考えを整理している。**



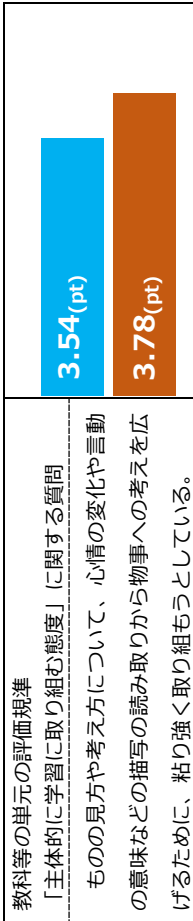
- ③ **自分に必要な資料やデータを基に文章内容をまとめている。**



📊 生徒アンケートの結果

事前 事後

4件法で回答



🔄 実践の振り返り

戦争に関連する文章内容を現代とつなげること、歴史的背景や当時の人物の思いを自分事と捉える生徒が増えた。課題は探究の時間の確保をすることである。実践後、学んだことの意義を自覚させるような授業実践を行うことで、生徒が自分事として学習内容をつなげて考えるようになった。

協働的な学び
自分に合った学び方

自主的・自発的な学び
体験活動、課題選択、

学んだことの意義を
実感する学び

習得段階における
深い学び

実践事例

習得

中学校 国語 第2学年 「多様な方法で情報を集めよう」

単元の目標

- (1) 意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができる。
- (2) 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、異なる立場や考えを想定しながら多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。
- (3) **言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。**

4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ単元のデザイン



本単元でのICTの活用

- ・ アンケート機能
- ・ スライド機能
- ・ コメント機能
- ・ デジタルノート
- ・ 共有機能
- ・ 共同編集機能
- ・ 検索機能
- ・ 学習動画

【本単元で重視した学習活動】

推敲において、読み手の立場から、よい点や改善点等の意見を伝え合ったり、自分の考えと友達の考えを比較したりすることで、自分の文章や表し方に対する他者の捉え方を知る。それにより、様々な考え方があることに気付くことができるようにする。



この資料だと、この言葉を使ったほうが伝わりやすいね。

習得の段階における深い学び

📖 本時：「習得」の段階

本時の目標（第4時／全7時間） ●● 学習活動 ・教師の役割

グループで選んだ職業を、相手に分かりやすく伝えるために、表す内容を工夫しようとする。

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

多様な方法で情報を集め、伝えたいことを明確にして、相手に分かりやすい文章にするために、読み手の立場を踏まえてよりよい表現の仕方を工夫して考えようとしている。

- ① 前時までの学習内容を振り返る。
ワークシートやスライド機能に蓄積されたこれまでの学習内容を振り返り、本時の学習内容の見通しをもちえるようにする。
- ② 前時までに集めた情報を分類・整理する。
学校図書館にある資料や検索機能を使って収集した資料を基に伝えたいことを明確にし、職業ガイドの紙面に表す内容を検討するよう視点を示す。
- ③ 紙面構成を考え、下書きを推敲し、紙面を作る。
共同編集機能を活用してグループで担当箇所を作成し、読み手の立場から、よい点や改善点等の意見を伝え合うよう助言する。
他のグループからのアドバイスを基に再考するよう促したり、教師が指導したりする。
- ④ 本時の振り返りを行う。
本時までに学習した内容をまとめるよう促し、次時からの探究の見通しをもてるようにする。

読み手の立場で推敲 「これなら伝わる？」

- ② 集めた資料から、伝えたいことを明確にし、紙面構成を考えている。
- ③ 他のグループからのアドバイスを基に、よりよい表し方や文章を再考している。
- ④ 本時までに学習した内容を振り返り、分かっただけの内容を振り返り、分かっただけの内容をまとめている。

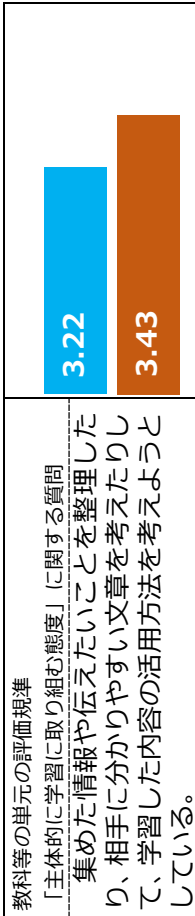


📊 生徒アンケートの結果

事前 事後

🔄 実践の振り返り

4件法で回答



教科等の単元の評価規準

「主体的に学習に取り組む態度」に関する質問

集めた情報を整理して、相手に分かりやすい文章を考えたりして、学習した内容の活用方法を考えようとしている。

「相手はどう捉えているのか。」と教師が投げ掛け、友達とやり取りすることの必然性を、常にもてるようにする工夫をした。これにより、生徒が自発的に意見を交換し、互いに資料の使い方を検討したり、文章を推敲したりするなど、表す内容を工夫する姿が見られた。

協働的な学び
自分に合った学び方

自主的・自発的な学び
体験活動、課題選択

学んだことの意味を
実感する学び

習得段階における
深い学び

実践事例

中学校 社会 第3学年 「地方自治と私たち」

単元の目標

- (1) 地方自治の基本的な考え方について理解する。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解する。
- (2) 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- (3) **民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする態度を養う。**

4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ単元のデザイン

習得の段階

<第1・2時>

- ・今後、自分が住む地方自治体に起こり得る課題について考え、グループで話し合う。
- ・**地方議会のしくみ、住民が地方自治体の政治に参加する方法を理解する。**

【教師の役割】

- ・スライド機能を活用し、意見を共有できるようにする。
- ・動画等の資料を活用し、国の政治と比較しながら知識を習得できるようにする。

<第3時>

- ・様々な自治体での事例を基に**地方自治体もつ課題**について理解する。
- ・自分が住む地方自治体の財政の現状について、統計資料などを基に調べまとめ、**地方財政の現状や課題**についてまとめる。

【教師の役割】

- ・タブレット端末を使用して資料を収集、分析できるようにする。
- ・自分が住む地方自治体の郷土資料や参考になるサイトを複数示す。

探究の段階

<第4～6時>

- ・自分が住む地方自治体が**重点的に取り組んでいくべき課題**について考え、**その根拠を資料にまとめる**。
- ・自分が住む地方自治体が抱える課題について資料を根拠に意見交換を行い、**よりよいまちづくりに向けて、重点的に取り組むべき課題について考え、自分が住む地方自治体への提言を作成する。**

【教師の役割】

- ・具体的な資料を根拠に自分の考えを述べるように促す。
- ・各班が作成した資料を共有し、資料として活用しながら提言を作成するよう助言する。

本単元でのICTの活用

- ・共有機能
- ・スライド機能
- ・コメント機能
- ・学習動画
- ・共同編集機能
- ・検索機能

【本単元で重視した学習活動】

学んだことの意義を実感する学び

習得の段階で身に付けた知識を活用して、自分が住む自治体の課題を分析し、意見交換、提言の作成を行う学習活動を設定した。そして、学んだ知識を実社会の課題解決に結び付け、地域の担い手として主体的に社会に関わろうとする態度の育成を目指した。



こんな課題があったのか。解決していかねばならない。

🔍 本時：「探究」の段階

本時の目標（第5時／全6時間） ●●● 学習活動 ・ 教師の役割

自分が住む自治体が抱える課題について資料を根拠に意見交換を行い、よりよいまちづくりに向けて、優先的に取り組むべき課題について自分の考えをまとめようとする。

- 1 発表班に分かれ、選択した課題について現状や今後の展望、他の自治体の取り組みについて発表する。
 - ・ 生徒が設定した人口減少・少子高齢化対策（子育て、福祉）・観光資源、特産品（ふるさと納税による税の流出）・商業施設、企業の減少・交通の利便性等の課題についてスライド機能で作成した資料を基に発表できるようにする。
- 2 優先順位についての意見交換を行う。
 - ・ 自分が住む自治体の現状を踏まえ、どの課題を最優先に取り組んでいくべきか話し合い、順位付けを行うことができるようにする。
- 3 同じ課題のグループに戻り、発表班で指摘されたことについて意見交換の内容を共有する。
 - ・ 意見交換で得た新たな視点について調査を行った班で共有できるようにする。
- 4 よりよいまちづくりに向けて、自分が住む自治体が優先的に取り組むべき課題について考えをまとめ、共有機能により他のグループの資料を参照しながら自分の意見をまとめられるようにする。

自分たちと地域の未来をつなぐ！

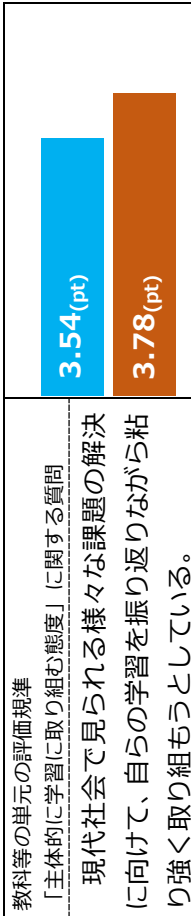
- 1 自分が住む自治体の課題について、習得した知識や自分で調べて作成した資料を根拠に自分の意見を述べている。
- 2 優先順位についての意見交換を通して、視野を広げ、課題を捉えようとしている。
- 3 学習内容を振り返り、地域の担い手として、最終的な自分の考えをまとめ、表現しようとしている。
- 4 学習内容を振り返り、地域の担い手として、最終的な自分の考えをまとめ、表現しようとしている。



🔍 生徒アンケートの結果

事前 事後

4件法で回答



自分が住む自治体で見られる課題を多様な視点で捉え、地域の課題を解決するための改善策を提案する学習活動を設定したことで、学んだ知識を実生活の問題として捉える生徒が増加した。習得の段階で定着が不十分な生徒も、班での対話の中で、既習内容を振り返ったり、話し合いに参加するために教師にもう一度内容を確認したりするなど、自然と習得内容の再確認を行う様子が見られた。

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

自分が住む地方自治体のまちづくりについて、住民自治の視点をもち、地域の担い手として自分ができることを主体的に考え、表現しようとしている。

協働的な学び
自分に合った学び方

体験活動、課題選択、自主的・自発的な学び

学んだことの意味を
実感する学び

習得段階における
深い学び

探究

実践事例

中学校 数学 第1学年 「方程式」

単元の目標

- (1) 一元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
- (2) 文字を用いて数量の関係や法則などを考察することができる。
- (3) 一元一次方程式について、**数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。**

4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ単元のデザイン



本単元でのICTの活用

- ・デジタル教科書
- ・アンケート機能
- ・スライド機能
- ・撮影機能

【本単元で重視した学習活動】

いろいろな方程式の解き方を考える活動において、既習事項を活用して計算方法を考えるよう促し、自分の考え方や友達の考え方を比較し、能率的に解く方法を理解したり説明したりすることができるようにする。



等式の性質を使えば、これまでと同じ考え方ができるね！

習得の段階における深い学び

🔍 本時：「習得」の段階

本時の目標（第6時 / 全15時間） ●● 学習活動 ・ 教師の役割

これまでに学習した内容を踏まえて、かっこを含む方程式や、小数を含む方程式の解き方を考えようとする。

- 1 **前時までの学習を振り返る。**
 - ・ 前時までの学習内容を投影し、本時の見通しをもてるようにする。
- 2 **教師が提示する課題を、個人で考える。**
 - ・ 理解度に応じた課題を選択できるようにする。
 - ・ 分からないところや疑問点については、メモするようにつに促す。
- 3 **自分の解き方や考え方をグループで共有する。**
 - ・ 自分の解き方や考え方を、同じ課題を解いている友達と共有し、解き方や考え方を比較してよりよい解決方法を考えるよう促す。
- 4 **本時を振り返り、全体で共有する。**
 - ・ **アンケート機能**を用いて、生徒の学習の定着度を把握するとともに、本時の学習内容で生徒が疑問に思ったことを共有できるようにする。
 - ※ アンケートは毎時間実施し、次時以降の授業及び探究する課題の設定に生かすことができるようにする。

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準
 等式の性質を用いてよりよい方程式の解き方を考えたり、方程式を解く過程を振り返って能率的に解く方法を考えたりしようとしている。

系統性を意識

- 2 既習事項の考え方が使えないか、これまでの学習内容を確認しながら考えている。



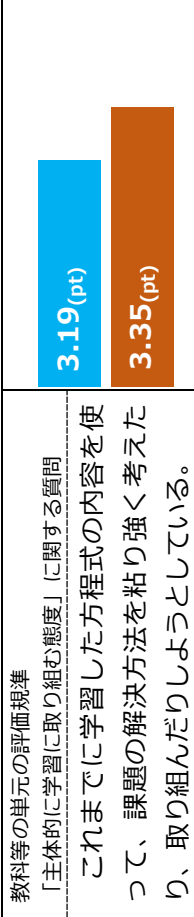
よりよい解決方法の考察

- 3 友達の考え方を聞いて、どうすればよりよい方法で問題が解決できるかを検討している。
- 4 本時を振り返り、理解したことや、疑問に思ったことを入力している。



🔍 生徒アンケートの結果

4件法で回答



既習事項を意識できるようにすることで、数学が苦手な生徒も見通しをもって課題に取り組む、自分の考えを発表する姿が見られた。教師から一方的に教えられるのを待つのではなく、生徒が主体的に「どうしたらこの課題を解決できるのか。」を考え、「なぜ？ どうして？」という問いが出てくるようになった。

協働的な学び
自分に合った学び方

自主的・自発的な学び
体験活動、課題選択

学んだことの意義を
実感する学び

習得段階における
深い学び

実践事例

中学校 理科 第1学年 「植物の分類」

単元の目標

- (1) いろいろな植物の共通点と相違点に着目しながら、植物の特徴と分類の仕方を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。
- (2) 身近な植物についての観察、実験などを通して、いろいろな植物の共通点や相違点を見いだすとともに、植物を分類するための観点や基準を見いだして表現すること。
- (3) **植物の特徴と分類の仕方に関する事象・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重する態度を養うこと。**

4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ単元のデザイン

習得の段階

<第1時～6時>

- ・植物の特徴で分類するときに、**どのような観点や基準で分類できるかを理解する。**
- ・花を分解し観察することや、校庭の植物の体のつくりを観察することで、**植物の体のつくりと動きを理解し、適切に分類する。**

【教師の役割】

- ・植物の分類に関する資料を提示し、分類することに興味をもてるようにする。
- ・校庭の植物に触れる機会を設定し、様々な感覚を使って観察できるようにする。

<第7・8時>

- ・シダ植物やコケ植物を実際に自分で採集し、その観察結果を基に、**体のつくりと殖え方について理解する。**
- ・植物を分類するための観点や基準を設定し、**表や図を使って分類し、表現する。**

【教師の役割】

- ・動画を活用し、種子で殖えない植物のイメージをもつことができるようにする。
- ・これまでに学習した分類方法を、自分なりに表現し、共有できるようにする。

探究の段階

<第9・10時>

- ・8つの植物の中で科学的な観点から一番魅力的だと思つた植物について、**習得した植物の特徴や分類の仕方を活用して**自分の考えをまとめ、表現し、発表する。

【教師の役割】

- ・身近にある特徴の違う8つの植物を提示し、選択できるようにする。
- ・「形」「働き」「殖え方」に着目し、既習事項を想起できるように助言する。
- ・必要に応じて、他の生徒のスライドを参照したり、アドバイスし合ったりできるようにする。

本単元でのICTの活用

- ・デジタル教科書
- ・アンケート機能
- ・スライド機能
- ・検索機能
- ・学習動画
- ・共有機能
- ・共同編集機能
- ・検索機能

【本単元で重視した学習活動】

単元を通して「一番魅力的だと思つた植物は何か」という問いを設定する。また、校庭の植物に触れる機会を設定し、実感を伴って理解できるようにする。そして、探究の段階で選択した植物の魅力について、既習事項を基に説明する学習活動を設定し、自分が調べた内容を他の生徒に発表する意欲を高める。



花粉の役割が重要な。

体験活動、課題選択、自主的・自発的な学び

🔦 本時：探究の段階

本時の目標（第9時／全10時間） ●●● 学習活動 ●●● 教師の役割

自分なりに一番魅力的だと思う植物を選び、既習事項を基に植物の「体のつくり」「働き」「殖え方」などに着目し、植物の特徴をまとめようとする。

- 1 前時までの学習を振り返る。
 - ・ 花の役割を想起し、植物には生きるためのつくりや仲間で殖やすためのつくりがあることを確認する。
- 2 どの植物が魅力的か、グループで話し合う。
 - ・ 生徒に身近で特徴の違う植物を複数提示し、選べるようにする。
 - ・ 単に好きな植物ではなく、既習事項を基に選択できようように、「体のつくり」「働き」「殖え方」に着目できるように助言する。
- 3 同じ植物を選んだ生徒同士でグループを組み直し、植物の特徴や魅力を話し合ったり、まとめたりする。
 - ・ 植物の特徴や魅力をスライド機能を使ってまとめ、必要に応じて共有機能を使って他の生徒のスライドを参照したり、アドバイスし合ったりできるように促す。
- 4 数名の中間発表を聞き、次時の見通しをもつ。
 - ・ 既習事項を基に着目していることを価値付ける。

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

どの植物が一番魅力的だと思うか、既習事項を基に自分の考えを話し合ったり、よりよくなまとめようとしている。

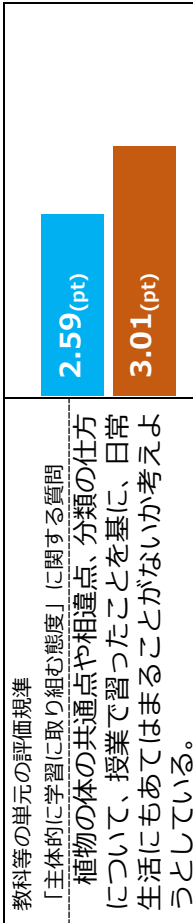
Flo(フラ)-1 グランプリ ～どの植物が魅力的か!?～

- 2 どの植物が一番魅力的か、既習事項を用いて検討している。
- 3 同じ植物を選んだ生徒同士でスライドを参照したり話し合ったりしている。
- 4 中間発表を聞き、次時の自分の発表のイメージをもっている。



🔦 生徒アンケートの結果

4件法で回答



教科書等の植物調べで留まることなく、校庭の植物に実際に触れて観察したり、「Flo-1 グランプリ」という発表形式にしたりすることで、生徒のワクワク感が高まった。また、単元を通して問いにより、生徒が植物の魅力について、既習事項を基に主体的にまとめることができた。今後も、探究の動機付けや既習事項をまとめる時間を大切にしたい授業づくりを行う。

協働的な学び
自分合った学び方

体験活動、課題選択、自主的・自発的な学び

学んだことの意味を
実感する学び

習得段階における
深い学び

探究

実践事例

中学校 音楽 第2学年 「歌唱表現を創意工夫して歌おう」

🎯 題材の目標

- (1) 「予感」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「予感」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- (2) 音の高低や重なり方、強弱や速度の変化などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、思いや意図をもって歌唱表現を創意工夫する。
- (3) 「予感」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。

🎯 4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ題材のデザイン

習得の段階

<第1・2時>

- ・ 合唱や歌詞の内容に対する理解を深める活動を通して**曲想と音楽の構造との関わり**について理解したり、歌詞の背景を知り**歌詞の内容と曲想の変化との関わり**を理解したりする。

【教師の役割】

- ・ 生徒の合唱を録音し、曲想と音楽の構造との関わりを実感を伴って理解できるようにする。
- ・ 事前に歌詞の背景となった話をクラウド上で共有し、歌詞の理解を深めることができるようにする。

<第3時>

- ・ 作曲者がどのように詞を解釈し、作曲したのかという視点から「予感」にふさわしい歌唱表現を考え、**歌唱表現するために必要な技能**を身に付ける。

【教師の役割】

- ・ 共同編集機能を使用し、互いの思いや意図を共有できるようにする。
- ・ 録音・録画機能を使用し、客観的に自分の技能を振り返ることができるようにする。

<第4～6時>

- ・ **歌詞の内容と曲想の変化との関わり**をもとに、クラスとしてどのような歌唱表現をしたいかを考え、クラス全体で一マを設定し、共通理解を図る。
- ・ これまでに習得した**歌唱表現するために必要な技能**を活用するとともに、歌唱表現に関わる新たな知識や技能を得たり生かしたりして演奏する。

【教師の役割】

- ・ これまでの生徒の発言等を基に、曲想と音楽の構造との関わりを一覧にまとめ、いつでも確認できるように掲示する。
- ・ 模範演奏との比較や前時の演奏との比較など、自分たちの現状を把握した上で、テーマを設定できるように支援する。

探究の段階

本題材でのICTの活用

- ・ 共同編集機能
- ・ アンケート機能
- ・ 撮影機能
- ・ 共有機能

【本題材重視した学習活動】

曲にふさわしい歌唱表現を考え、必要な技能を教師の指導や自分たちで試行錯誤しながら身に付けることができるようにする。また、習得したことを活用して演奏したり具体的に言葉で表現したりする活動を通して、習得した内容を自覚できるようにする。



ここはもっと弱く歌った方がいいかな？

習得の段階における深い学び

🎯 本時：「習得」の段階

本時の目標（第3時／全6時間） ●●● 学習活動 ・教師の役割

作曲家がどのように詞を解釈し作曲したのかという視点から、「予感」にふさわしい歌唱表現を考えて歌おうとする。

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心をもち、自分の考えを表現したり繰り返し練習したり、音楽活動を楽しみながら学習活動に取り組もうとしている。

- ① 前時までの学習を振り返る。
 - ・ 歌詞の内容と曲想の変化がどのようなに関わっているかを全体で確認し、本時の学習の見通しをもてるようにする。
- ② 歌唱表現を考える。
 - ・ 作曲者の思いや、曲想と音楽の構造や歌詞の内容などとの関わりなどから、自分の考えをまとめるよう助言する。
 - ・ 共同編集機能で自分と友達の考えを比較するよう促す。
- ③ 歌唱表現するために必要な技能を身に付ける。
 - ・ 撮影機能を用いて、自分たちが考えた歌唱表現で演奏できているか確認し、互いにアドバイスをしよう助言する。
 - ・ 学習した内容を自分の言葉でまとめるよう促す。
- ④ 本時の振り返りを行う。
 - ・ 本時までに習得した内容等を共有機能を使って確認し、それらを活用して自分たちのクラスではどのような歌唱をしたいか考えるよう促す。

聴いて・感じて・表現する作曲者の思い

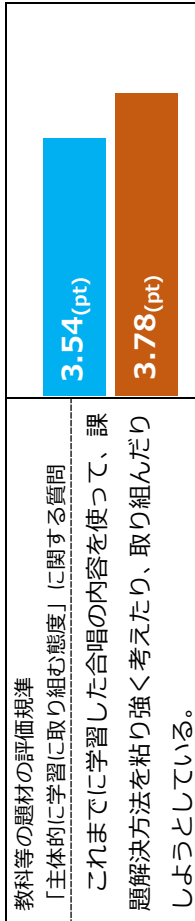
- ② 自分の考えと友達の考えを比較し、よりよい歌唱表現の方法を考えている。
- ③ 工夫したことや意識したことを楽譜等に書き込み、まとめている。
- ④ これまで習得した内容を自覚し、探究の見通しをもとうとしている。



🎯 生徒アンケートの結果

事前 ■■■■ 事後 ■■■■

4件法で回答



単元の始めに探究のゴールイメージを生徒と共有したことで、生徒が習得の段階で目的意識をもって歌唱表現に取り組む姿が見られた。また、他の題材でも、本題材での学習の進め方を意識して学習に取り組み、よりよい歌唱表現を考えようとしている姿が多く見られた。

協働的な学び
自分に合った学び方

自主的・自発的な学び
体験活動、課題選択

学んだことの意義を
実感する学び

習得段階における
深い学び

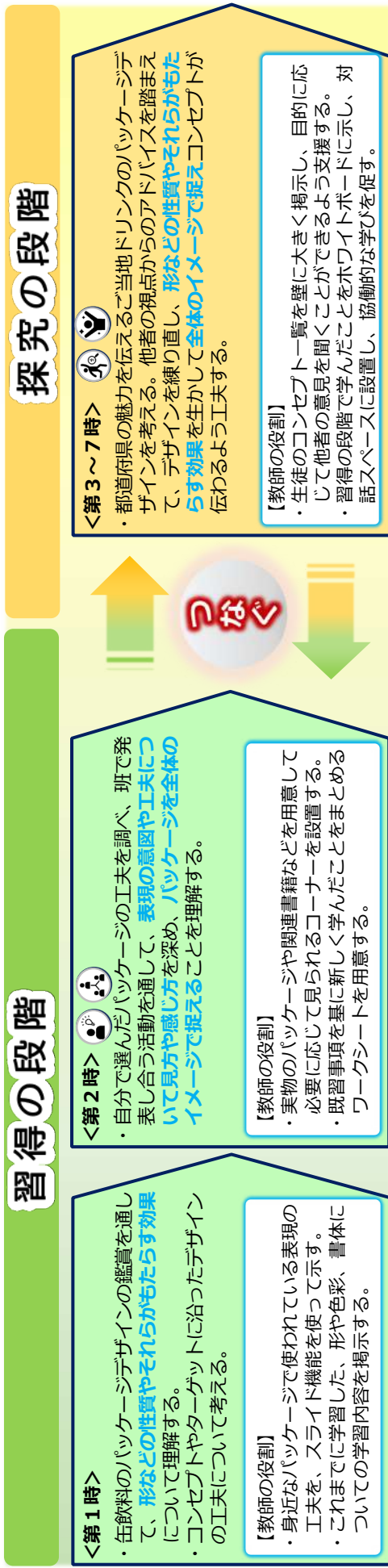
実践事例

中学校 美術 第3学年 「パッケージで魅力を伝える〜ご当地ドリンクのパッケージデザイン〜」

🎯 題材の目標

- (1) 形などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表す。
- (2) 伝える相手や目的などから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、地域の魅力を伝えるパッケージデザインの構想を練る。パッケージの調和のとれた洗練された美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。
- (3) **美術の創造活動の喜びを味わい、地域の魅力を伝えるパッケージデザインを、伝える相手や目的などを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に主体的に取り組もうとする。**

🎯 4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ題材のデザイン



🔍 本時：「探究」の段階

本時の目標（第4時／全7時間） ●● 学習活動 ・教師の役割

コンセプトやターゲットを基に、形などを工夫して地域の魅力を伝えるパッケージデザインの構想を練り直そうとする。

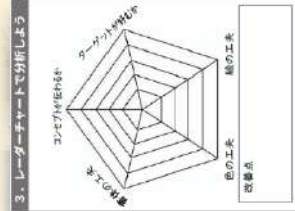
本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

形などが感情にもたらず効果などを総合的に考えて構想を練り、意図に応じて創意工夫し見直しをもって、協働しながらよりよい改善策を考えようとしている。

- ① 例示したパッケージを鑑賞する。
 - ・ 教師が作成したパッケージを鑑賞し、どうすれば自分の作品が、より伝わるデザインになるかを考えるよう促す。
- ② レーダーチャートを用いて分析する。
 - ・ 友達の作品に対して、コンセプトが伝わるデザインになっているか、レーダーチャートを用いて自分の考えを記入できるようにする。
- ③ 友達等との対話を通して改善策を考える。
 - ・ 自分の目的に合った友達のコンセプト等を選び、対話する相手を決め、レーダーチャートを用いて他者からアドバイスし合うよう支援する。
- ④ 自分に合った学び方でデザインを練り直す。
 - ・ 実物のパッケージや掲示物、検索機能や描画機能を使っての検索や試作、対話などから、自分の目的に合った学び方でデザインを練り直すよう促す。

知りたい！ 話したい！ パッケージ会議中

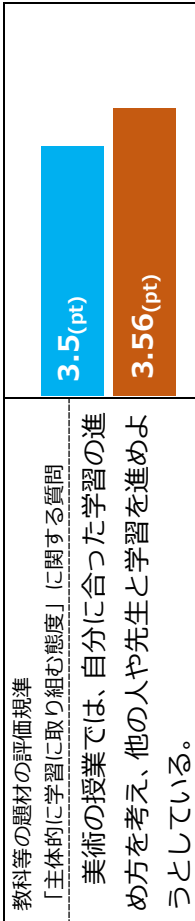
- ② 「このデザインどう？」
友達の作品に対して、よいところや改善点等を記入している。
- ③ 「色を変えようかな」
友達のアドバイスを基に、実物を見たり、調べたりして改善策を考えている。
- ④ 「どんな色にしよう」
モニターを使って、考えた配色を試したり、友達と相談したりしている。



🔍 生徒アンケートの結果

事前 ■■■■ 事後 ■■■■

4件法で回答



教科等の題材の評価規準
「主体的に学習に取り組む態度」に関する質問
美術の授業では、自分に合った学習の進め方を考え、他の人や先生と学習を進めようとしている。

🔍 実践の振り返り

自己の目的に合った学び方でデザインを練り直すために、生徒が「知りたい」「話したい」と思うタイミングで、既習事項を活用しながら友達と自発的に学習を進める姿が見られた。今後は毎時間の振り返りや自己評価を充実させることで、自身の学習の定着度や目的にあった学び方を的確に選択できるような授業改善をしていく。

協働的な学び
自分に合った学び方

自主的・自発的な学び
体験活動、課題選択

実感する学び
学んだことの意義を

深い学び
習得段階における

探究

実践事例

中学校 保健体育 第3学年 球技（ネット型）「バレーボール」

単元の目標

- (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた空間をめぐる攻防ができるようにする。
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間と考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) 球技（ネット型）に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事と、互いに助け合い教え合おうとすることができる。

4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ単元のデザイン

習得の段階

<第1・2時>

- ・運動観察の方法等について理解し、タブレット端末の操作方法を確認する。
- ・試しのゲームを通して、生涯スポーツにつながる知識、課題をよりよく解決する方法、安全を確保して全員が楽しむことができる意義を理解する。

【教師の役割】

- ・ボール操作に課題がある場合は、簡易なルールで基本的なボール操作に慣れるようにする。
- ・運動観察の方法が理解できるように、モデルチームを用いて説明する。

<第3～7時>

- ・自己やチームのボール操作の成功率についてタブレット型端末を用いて課題を発見し、合理的な解決に向けて練習方法等を工夫する。
- ・ネット型のゲームが楽しいと感じる場面や楽しくないと感じる場面にはどのような時があるかを振り返る。

【教師の役割】

- ・ボール操作に課題がある生徒には個別に指導・助言する。
- ・自己やチームの課題を解決するために、データのグラフや数値を活用できるようにする。

探究の段階

<第8～10時>

- ・体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに自己に合った球技（ネット型）を楽しむための活動方法や調整の仕方を見付ける。
- ・チーム全員が違いを超えて、ゲームに楽しく取り組み組む。

【教師の役割】

- ・ルール・ネットの高さ・用具等の工夫について、チーム間で合意形成を図るよう促す。
- ・生徒の健康観察や施設・用具の安全面等の確認及び確保をする。

本題材でのICTの活用

- ・表計算ソフト
- ・学習動画
- ・アンケート機能

【本単元で重視した学習活動】

自分に合った学び方、協動的な学び

自分に合ったゲームの楽しみ方を選択できるようにすることで学習を「自分事」として捉えることができるようにする。仲間とともにゲームを楽しむためには、練習の仕方やゲームの修正に合意しようとする事などが必要であることを理解し、学習活動に参加しやすい環境を設定する。



みんな楽しくゲームするためにキヤッチ1回はOKにしようよ。

📎 本時：「習得」の段階

本時の目標（第6時／全10時間） ● ● ● 学習活動 ・ 教師の役割

- 自己やチームの課題の合理的な解決に向けて、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- 作戦などについての話し合いに貢献しようとする。

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

チームに関する課題提起や、チームの作戦などについて積極的に意見を出し、話し合いに貢献しようとしている。

① 前時までを振り返り、本時の見通しをもつ。

- 前時までの学習内容及び本時の目標を全体で確認するとともに生徒の健康状態を把握する。

② ゲーム①を行う。（課題を発見する）

- ボール操作に課題がある生徒には個別に助言する。

③ チームで練習を行う。（課題を解決する）

- 自己やチームの課題を改善するために、**表計算ソフト**を使ってデータのグラフや数値を活用できるようにする。

④ ゲーム②を行う。（課題が解決できたと確認する）

- ボール操作に課題がある生徒には個別に助言する。

⑤ 本時の振り返りを行う。

- 「楽しいと感じる場面」や「楽しくないと感じる場面」にはどのような時があるか振り返ることができるようにするために**アンケート機能**を活用する。

ゲームで学ぶ ゲームから学ぶ ゲームを楽しむバレーボール

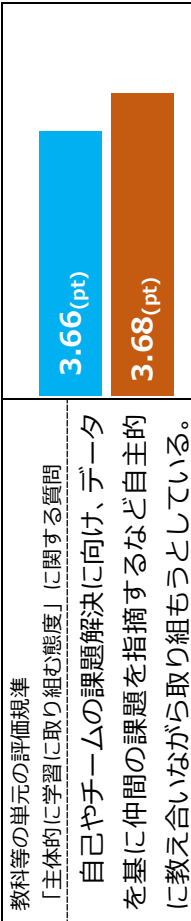
- ゲーム①を行い、自己やチームの課題を発見している。
- ゲーム①から新たな課題に気づき、新たな練習を行うために話し合っている。
- ゲーム②から新たな課題解決の練習を踏まえて、ゲーム②で確認している。



📎 生徒アンケートの結果

事前 事後

4件法で回答



自己やチームの課題解決に向け、データを基に仲間の課題を指摘するなど自主的に教え合いながら取り組もうとしている。

📎 実践の振り返り

自己やチームの課題を客観的に捉えられるように、タブレット型端末を活用して課題を発見できるようにしたこと、必要感をもってゲームに取り組むことができた。また、練習の仕方やゲームのルール等について、仲間と合意形成を図りながら、合理的に課題を解決・確認できるようにしたこと、ネット型を楽しむための活動方法や調整の仕方を見付け、主体的に学習に取り組む姿が見られた。その姿勢が共生を大切にされた探究につな

協働的な学び

体験活動、課題選択、自主的・自発的な学び

学んだことの意義を
実感する学び

習得段階における
深い学び

習得

実践事例

中学校 技術・家庭（技術分野） 第3学年 「学校周辺に必要な信号機のプログラムを制作しよう」

📌 題材の目標

- (1) 生活や社会で利用されている情報の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付ける。
- (2) 生活や社会の中から、情報に関わる問題を見いだして、必要な機能をもつコンテンツのプログラムの設計・制御システムの設計・製作などの課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) **よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。**

📌 4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ題材のデザイン

習得の段階

<第1・2時>

- ・信号機のプログラムを通して、生活や社会で利用されている計測・制御システムの仕組みを理解しながら、プログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができるようになる。

【教師の役割】

- ・Web アプリによるプログラムの制作とその結果を視覚的に示すことができる教材を用いて、制作から改良まで見通しをもつことができるようにする。

<第3・4時>

- ・地域における様々な状況を想定した信号機のプログラムを制作する活動を通して、制作したプログラムを他者と相互評価して、技術を最適化していく資質・能力を育てる。

【教師の役割】

- ・地域の施設や利用者等を設定し生徒が「自分事」として取り組めるようにする。
- ・他者のプログラムを参照しやすいように共有アプリを活用できるようにする。

探究の段階

<第5～7時>

- ・学校周辺の交通状況等を整理し、課題を設定する。これまでに習得した**実現したいプログラムの制作とデバッグ**、そして**最適化**した信号機を制作する。

【教師の役割】

- ・これまで制作してきたプログラムやデバッグ後のプログラムなど学習してきたことを、掲示物や Web 掲示板等を利用して共有・支援する。
- ・見付けた地域の交通状況における課題を共有するとともに、課題を見付けられない生徒への支援をする。



本題材でのICTの活用

- ・カメラ機能
- ・共有機能
- ・アンケート機能
- ・地図アプリ
- ・検索機能
- ・コメント機能
- ・電子黒板（授業スライド）
- ・プログラムミニング Web アプリ

【本題材で重視した学習活動】

信号機のプログラム制作活動を通して、思いや意図を共有しながらプログラムを最適化し、他者との協働的な学びを価値付ける。振り返り等で自身の学びを評価し、学習を調整する機会を設定し、自分に合った学び方を見付けることができるようにする。



この信号機はどう？高年齢者にやさしいかな？

自分に合った学び方、協働的な学び

🔍 本時：「習得」の段階

本時の目標（第4時／全7時間） ●●● 学習活動 ・ 教師の役割

条件によって違うプログラムを作成し、そのプログラムを最適化しようとする。

① 前時までに学習したことを振り返りながら、本時に取り組む課題を捉える。

・ これまでのプログラミングで、考えたことやフローチャート等を確認し、本時の見通しをもつことができるようにする。

② 交通状況等を踏まえた信号機モデルを制作する。

・ 地域の一員として交通安全の視点をもたせ、持続可能かつ安全な信号機を**プログラミングWebアプリ**で制作できるようにする。

③ 制作したプログラムを他者と相互評価し、信号機モデルを最適化していく。

・ 教師と生徒、生徒相互で工夫した点や改善点等を伝え合う場面を設定する。

④ 本時及びこれまでの学習を振り返る。

・ 本時までに習得したプログラミングの技能、最適化の視点等を整理し、プログラミングの技能が習得できているかを自己評価できるようにする。

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

信号機を利用する人の視点をもちながら、信号機モデルの制作に取り組み、互いのプログラムを相互評価しながら最適化しようとしている。

プログラミングで実現 信号機で守る私の地域

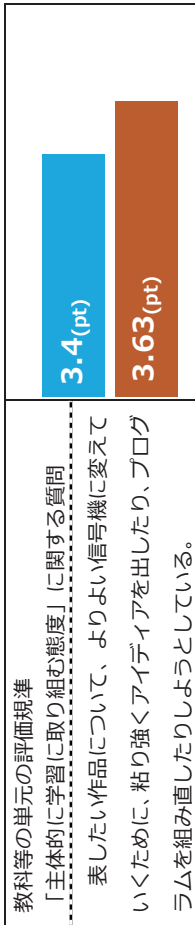
- ② 信号機を利用する人の視点をもちながら信号機モデルを制作しようとしている。
- ③ 制作した信号機モデルのプログラムを相互評価しながら最適化しようとしている。
- ④ 制作したプログラムや最適化の視点を整理し、プログラミングの技能が習得できているかを自己評価している。



🔍 生徒アンケートの結果

事前 事後

4件で回答



🔍 実践の振り返り

地図アプリを活用して、安心・安全な信号機について「点滅が長いと高齢者がゆっくり渡れる」「夜間はボタン式でもよい」等、利用する人の立場で考えた個人の考えを、友達と自然発生的に交流していた。身の回りの事象と題材を関連付けたことで、生徒が課題を「自分事」として捉えることができ、「必要感」をもって学習に取り組む姿が見られた。

👥 協働的な学び
自分に合った学び方

👤 主体的・自発的な学び
体験活動、課題選択、

👩 学んだことの意味を
実感する学び

👤 習得段階における
深い学び

👤 実践事例

習得

中学校 外国語 第2学年 「Work Experience」

単元の目標

職場体験を通じて学んだことを ALT に英語を使って伝えることを通して、英語が伝わる喜びや外国語を学ぶ意義を実感するために、職場体験で体験したこと、考えたこと、その経験から学んだことを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容をスピーチしたり、級友のスピーチを聞いて要点を聞き取りすることができる。

4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ単元のデザイン

習得の段階

<第1～3時>

- 習得した文構造を生徒の生活場面（何かの使い方や物事の様子など）を想定し、その場面における適切な表現を英語で説明する。

【教師の役割】

- 習得させたい文法事項を生徒の前で何度も繰り返し使ったり、使う場面を想定してやり取りしたりする中で、定着できるようにする。
- スライド機能を用いて様々な場面を提示し、生徒が提示された場面に応じた適切な表現を英語で説明できるようにする。

<第4～6時>

- 教科書の本文を読み、概要を捉える。
- 本文の内容に関して理解した内容を別の人に語ることを通して、既習の英語表現への理解を深める。

【教師の役割】

- 生徒が音読に自信をもって取り組むことができるよう、様々な音読の方法を用いて、繰り返し練習できるようにする。
- 教科書の内容について、Q & A 形式でやり取りを行い、概要を捉えることができるようにする。

探究の段階

<第7～10時>

- 職場体験に関するスピーチを完成させるために、既習事項を活用して、発表相手である ALT を意識した英語表現を考える。
- 友達や ALT に分かりやすいように、スライド機能を用いてイラストや写真を加えながら、自分のパフォーマンスを高める工夫をする。
- 個人練習 → ペア練習 → 個人練習 → 小集団練習 → 個人練習を通して、相互のフィードバックを繰り返すことでスピーチ発表のレベルを上げていく。

【教師の役割】

- 発表本番に向けての練習において、生徒の学習進度に合わせて、生徒のスピーチの完成度を高められるよう支援する。
- ワークシートを工夫し、相互のフィードバックを個人の学びの調整につなげるよう促す。

本単元での ICT の活用

- デジタル教科書
- スライド機能
- 検索機能

【本単元で重視した学習活動】

相手を意識した発表をするために、個人での振り返り、ペアでの練習、小集団での練習を通して、聞いてもらった人からのフィードバックを記入したワークシート「お土産」をもらい、発表の質が上がるようにする。発表の質を向上させることで、ALT に英語で伝える喜びを実感できるようにする。

学んだことの意義を実感する学び



伝わった！
前より上手
にできた。

🔍 本時：「探究」の段階

本時の目標（第9時／全10時間） ●●● 学習活動 ・教師の役割

職場体験についてA L Tに伝えるための発表に向けて、リハーサルを繰り返す中で、自分のパフォーマンスを自他で評価し、よりよくしようとする。

- ① 前時までの学習を振り返り、めあてを設定する。
 - ・ 英語で挨拶をし、簡単な日常会話や英語の歌を歌って授業の雰囲気づくりをする。
- ② 発表に向けてのリハーサルを行う。
 - ・ 個人練習 1 用意した発表原稿、スライド機能を用いて、個人で発表の練習を行う。
 - ・ ペア練習 隣同士で発表し合い、良い点・改善すべき点を確認する。
 - ・ モデル発表 代表生徒にスピーチのモデルになってもらい、みんなと一緒にレベルアップするために必要なポイントを確認する。
 - ・ 個人練習 2 ペア練習でのアドバイスを振り返り、もう一度練習をする。
 - ・ グループ練習 4人程度のグループで発表をする。
- ③ 本時のまとめをする。
 - ・ 本時の取組の価値付けと本番に向けて全体へのアドバイスを行う。

友達から「お土産」をもらってレベルアップ

- ② ペアでの発表練習を通して、発表相手のA L Tを意識し、分かりますか？ やりやすく発表できているか相互にフィードバックを行っている。
- ③ 友達からのフィードバックを記入したワークシート「お土産」を確認し、発表の質を意識した個人練習をしている。
- ④ ペアでの練習における相互のフィードバックを踏まえ、自分の発表をよりよくし、小集団の中で、リハーサルを行っている。

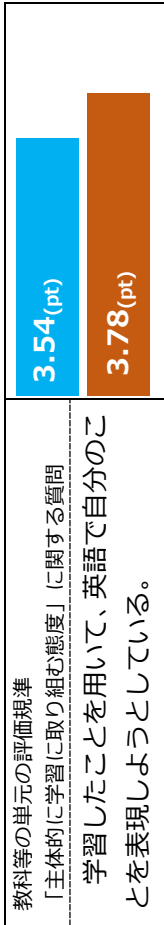


本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

発表の工夫（発声・態度・提示資料）をし、発表に向けた練習の中で、友達からもらったアドバイスをメモし、A L Tへの発表方法を改善し、話そうとしている。

🔍 生徒アンケートの結果

4 件法で回答



🔍 実践の振り返り

友達やA L Tに英語で自分のことや体験を伝えるために、何度もリハーサルをし、毎回アドバイスをし合ったことで、自信をもって英語で表現したり、相手に伝えたりすることができるようになった生徒が増えた。今後も、生徒が自分事として学習をし、英語表現を実生活で使えるようになるために、生徒の実生活とのつながりを想定し、習得した内容を定着、活用できる単元のデザインや授業展開をしていく。

協働的な学び
自分に合った学び方

自主的・自発的な学び
体験活動、課題選択

実感する学び
学んだことの意味を

深い学び
習得段階における

探究

実践事例

中学校 特別活動 第1学年 「音楽祭を通してよりよい学校生活をつくろう」

🎯 題材の目標

- (1) 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成のための手順や活動の方法を身に付けている。
- (2) 学級や学校生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践できる。
- (3) 生活の諸問題上の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする。

🎯 4つの学習活動を踏まえた習得と探究をつなぐ題材のデザイン

*本研究では、特別活動における自主的、実践的な活動を通して知識及び技能を体得することを「習得」と捉えた。



本題材でのICTの活用

- ・アンケート機能
- ・共有機能
- ・スライド機能
- ・コメント機能
- ・撮影機能

【本題材で重視した学習活動】

体験活動、課題選択、自主的・自発的な学び

体育祭に向けたクラス目標や取組を振り返り、音楽祭に向けて学年委員と音楽祭実行委員会を中心に司会進行しながらクラス目標を決める。生徒主体で取組を改善するとともに、集団への所属感や連帯感を深めるようにする。



体育祭で学んだことを生かして音楽祭を成功させたい。

🎒 本時：「探究」の段階

本時の目標（第1時/全6時間） ● 学習活動 ・ 教師の役割

体育祭を振り返り、音楽祭のクラス目標を立てることの意味を理解し、年度当初のクラス目標を踏まえ、音楽祭の成功をイメージして考え、話し合い、クラス目標を決めることができる。

- 1 学校行事（体育祭）を振り返る。
 - ・ 撮影機能やアンケート機能を使って体育祭で学級や自分が学んだことや成長したことを確認する。
- 2 学級会の議題を確認する。
 - ・ 学年委員と音楽祭実行委員が司会進行を行い、今回の学級会の議題を共有する。
- 3 音楽祭のクラス目標を考える。
 - ・ 年度当初のクラス目標を踏まえ、音楽祭のクラス目標を考え、意見を出し合う。
 - ・ 折り合いを付け、音楽祭のクラス目標を全員で合意形成する。
- 4 合意形成したクラス目標を確認する。
 - ・ クラスで話し合っ決めて音楽祭のクラス目標を確認し、この目標を達成するために、自分たちで取り組むことについて考える。
- 6 本時を振り返る。
 - ・ アンケート機能を使って自己評価を行う。

本時の「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準

- ・ 体育祭に向けたクラス目標や取組を振り返り、音楽祭に生かそうとする。
- ・ 音楽祭の成功をイメージしてクラス目標を考えようとする。
- ・ 一人一人の考えを尊重しながら話し合い活動を円滑に進めようとする。

認め合い・高め合い クラスをアツプデート！

- 2 学年委員と音楽祭実行委員の司会進行で、生徒主体で自発的に話し合いを進めている。
- 3 体育祭の経験を生かし、互いの意見を認め合いながら、音楽祭に向けたクラス目標を考えている。
- 4 音楽祭の成功をイメージして、学級全体で一つになることの大切さについて考えている。



🎒 生徒アンケートの結果

事前 事後

🎒 実践の振り返り

4件法で回答

教科等の題材の評価規準 「主体的に学習に取り組む態度」に関する質問 学校行事に向けたクラス目標の達成に向けて、クラスの仲間と協力してよりよく改善したり、学んだことを学校生活に生かそうとしたりしようとしている。	事前	事後
	2.92(pt)	3.46(pt)

音楽祭に向けたクラス目標を決める学級会や目標達成に向けて取り組む中での話し合い活動、音楽祭本番を通して、集団への所属感や連帯感を深めることができた。今後は、より主体性を高めるために、よりよい合意形成の方法や意見を分類・整理する手段について、生徒主体の話し合いの中で適切に支援や助言をすることができるようしていく。

協働的な学び
自分に合った学び方

自主的・自発的な学び
体験活動、課題選択、

実感する学び
学んだことの意味を

深い学び
習得段階における

探究

実践事例

主体的に学習に取り組む子供をどう育てるか

東京大学名誉教授／帝京大学中学校・高等学校 校長 市川 伸一

1 「主体的に学習に取り組む」とは

2017年の学習指導要領の改訂で、「主体的・対話的で深い学び」というのは、学校教育に最も大きな影響を与えたキーワードではないだろうか。中でも「主体的な学び」というのは、それに近い用語である。「自律的な学び」「学習の自己調整」などと相まって今でも大きな関心を集めている。しかし、「主体的」という日常的にも使われる語が、どういう意味なのかについては、いろいろな解釈があるようだ。もともと中教審や文部科学省は、「主体的な学び」をどのような意味で使っているのだろうか。2016年12月の中教審答申には、次のような一節がある。

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

このような学びを目指すのは素晴らしいことである。にもかかわらず、現在の学校教育が必ずしもそうっていない実態があるからこそ、「実現できているか」と問われるのだろう。学校で学ぶことに興味・関心がない、自分のキャリア形成との関連を見いだせない、見通しをもたずにただ課題をこなすだけになりがちである、粘り強さがなくすぐに諦めてしまう、学習を振り返ろうとしない、などという現状があるのも確かである。

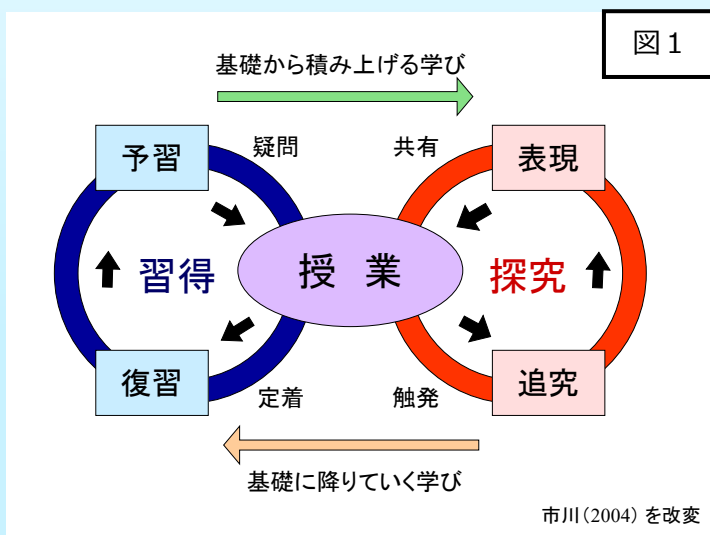
これは、教員にとっても不本意な状況であるに違いない。少なくとも、学校教員は教科の内容が社会的にも文化的にも意義のある内容であることを知っているし、おもしろいと思っている。だからこそ、学ぶ目的や楽しさを子供に伝えたくて教師になったはずである。悩ましいのは、なかなかそれが子供に伝わらないことである。だからこそ、授業の工夫が求められることになる。

まず、どのような教え方、学び方をすれば、難しい内容でも分かるようになるのか、学んだ内容が知識として定着するのかの追究である。一方では、学んだ知識・技能や学校で得られた力が社会の中でどのように生かされるのかを示すことである。理解できることの楽しさか、自分の役に立つことの見通しか、少なくともそのどちらか、できればその両方があれば、子供たちは自ら主体的に学ぶようになるだろう。

2 主体的な学び手へと成長するプロセス

難しいのは、主体的な学び手というのは、学びを子供本人に委ね、内容や方法を選択させれば育つというわけではないということだ。ましてや、知識・技能の習得をおろそかにして、自らの興味・関心に応じた探究活動に取り組ませたからといって、子供自身が満足できる学習が成立するわけではない。図1は、習得と探究のバランスの結びつきについてのモデルであるが、前回の指導要領改訂（2008年）でも、今回の改訂でも、この考え方は生かされている（図2）。

最近では、「個別最適な学び」、しかも、個別最適にするのは、教師やAI（人工知能）で



市川(2004)を改変

着実な習得のための指導・教授の重要性 (中教審答申 2016.12, p.52)

図2

質の高い深い学びを目指す中で、教員には、**指導方法を工夫して必要な知識・技能を教授**しながら、それに加えて、子供たちの思考を深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、**学びに必要な指導の在り方**を追究し、必要な学習環境を積極的に設定していくことが求められる。そうした中で**着実な習得の学習**が展開されてこそ、**主体的・能動的な活用・探究の学習**を展開することができると考えられる。

あつてはならず、学習者自身であるべきだとよく言われる。これは、教育的な主張としてはもっともなのだが、何が自分にとって最適な学びであるかを最初から分かっている子供はそういるものではない。さまざまな学びの経験を通してこそ、何が自分に合った内容や学び方なのかの選択や判断ができるようになっていく。

すると、授業では、むしろ多様な学び方を経験させ、子供に判断材料を提供するほうが望ましいことになる。逆に、学び方の指導や評価が大切だということで、個々の教師が自分の指導法を絶対的なものだと思ってそれを押し付け過ぎてしまうと、発達差、学力差、個人差などに対応することはとてもできない。仮に子供が

その通りやるようになったとしても、それは主体的な学びではなく、統制された学びになってしまう。

3 授業や教師は学び方を学ぶリソース

実際には、多様な教師がいるのはむしろ恵まれた環境とも言える。また、同じ教師が行う授業であっても、その授業の中に、様々な指導法が盛り込まれていれば、子供は多様な経験をして、学び方のレバートリーを拡げることにつながっていく。私自身は、習得のオーソドックスな授業設計論として、「教えて考えさせる授業（OKJ）」という提案をしてきた。これは、一つの授業スタイルや指導の型のように捉えられてしまうことがあるが、実は、それ自体がいろいろな指導法や学び方の集積になっているのが大きな特徴である。

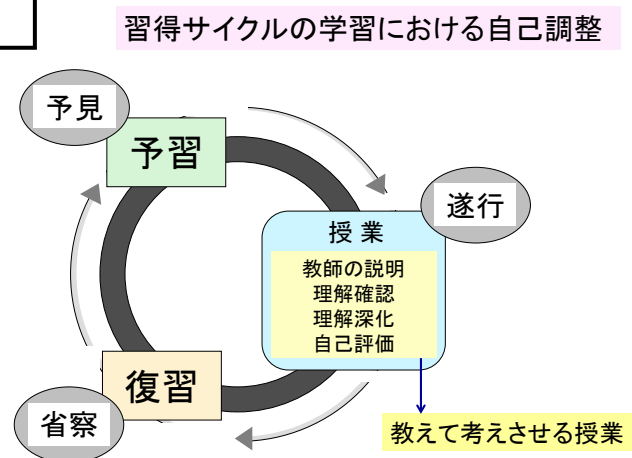
例えば、教科書の予習や教師の説明から学ぶ明示的教授法、教わったことを自分の言葉で相互に説明しあう理解確認、協働的問題解決を取り入れた理解深化、自分の分かったことやまだ分からないことを記述する自己評価など、それぞれ独自の研究や実践の背景をもっている。それらを組み合わせることで、メタ認知や Input-Output バランスを重視した深い習得を図ろうとしているわけである（図3）。このような習得の学習があつてこそ、より充実した探究活動も可能になってくる。

最終的には、授業も教師も教科書も、学習者がリソースとしてうまく取捨選択して利用すべきものと位置付けられるのではないだろうか。それは、子供がはじめから我流で好きなことを好きなやり方で勉強すればよいということではなく、一定の指導を行って多様な経験をさせることはやはり必要だ。それを通して、子供が主体的な学び手へと成長していくという方向性を教師側も子供側も、もってほしいと思っている。

【参考図書】

- 市川伸一（2004）『学ぶ意欲とスキルを育てるーいま求められる学力向上策ー』 小学館、
- 市川伸一（2020）『「教えて考えさせる授業」を創る アドバンス編』 図書文化、
- 市川伸一・篠ヶ谷圭太（2023）学習の自己調整は日常的学習行動の中でどう促進されるのかー研究、実践、政策の動向と今後の展望ー、『教育実践学研究』 Vol.25(1)、 pp.81-94.

図3



市川・篠ヶ谷(2023)を改変

研究のまとめ

主体的に学習に取り組む子供を育成する授業の在り方について、22の実践事例を通して、子供の主体性を育む4つの学習活動及び3つの視点のよさやポイントが明らかになった。

子供の主体性を育む4つの学習活動を単元（題材）のデザインに位置付けるよさ

本研究で整理した「子供の主体性を育む4つの学習活動」を単元等のデザインに位置付けたことで、以下に見られるような児童・生徒の姿が見られた。



習得の段階における深い学び

単元の始めに探究のゴールイメージを生徒と共有したことで、生徒が習得の段階でも目的意識をもって主体的に学習に取り組む姿が見られた。



学んだことの意義を実感する学び

地域の課題を解決するための改善策を提案する学習活動を設定したことで、学んだ知識を主体的に実生活の問題解決に生かす生徒が増加した。



体験活動、課題選択、自主的・自発的な学び

学校や地域の中でできる体験活動を重視したことで、自分の長所を生かした探究的な学習に主体的に取り組み、自己の成長を実感することができた。



自分に合った学び方、協働的な学び

自分に合った学び方を選択できる学習形態にすることで、生徒が主体的に既習事項を活用しながら友達と協力して取り組む姿が見られた。

視点1 習得と探究をつなぐ単元（題材）のデザインのよさ

単元等において、身に付けさせたい力を明確にして、習得と探究のバランスを考えて単元等をデザインしたことにより、習得の段階では、問題解決の過程を通じて、子供自身が習得したことを自覚できるようになった。探究の段階では、習得したことを活用して、興味・関心等に応じて設定した課題を主体的に追究できるようになった。



視点2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のポイント

単元等における主体的に学習に取り組む子供の姿を想定し、自己調整している姿や粘り強く取り組んでいる姿の具体が見える評価規準を設定することが必要である。主体的に学習に取り組む子供の姿を具体化したことで、子供への指導や支援の意図が明確になって充実するとともに、子供の学びを具体的に見取ることができた。



視点3 子供の主体性を促す教師の役割のポイント

単元等の目標を踏まえて、習得の段階と探究の段階における、教師の役割を具体化した。習得の段階では、教師が教えることと子供に考えさせることを明確にして、指導や支援を充実させることが大切である。探究の段階では、子供自ら探究できる学習環境や学習形態、教材等を工夫することが重要である。



委員名簿

委員長

東京都多摩教育事務所
所長 小島 貴弘

副委員長

東京都多摩教育事務所
指導課長 吉成 嘉彦

部会長

八王子市立第十小学校
校長 国 富 尊

部会長

昭島市立清泉中学校
校長 佐藤 晴美

特別委員

東京大学 名誉教授 / 帝京大学中学校・高等学校 校長 市川 伸一

委員



小学校

〈実践事例 1〉	国語	東村山市立回田小学校	主任教諭	一柳 祐太
〈実践事例 2〉	国語	立川市立第八小学校	主任教諭	小林 孝行
〈実践事例 3〉	社会	福生市立福生第一小学校	主任教諭	上條 大樹
〈実践事例 4〉	算数	三鷹市立東台小学校	主任教諭	壽崎 慎太郎
〈実践事例 5〉	理科	八王子市立由木東小学校	教諭	佐藤 悠樹
〈実践事例 6〉	生活	小平市立小平第一小学校	主任教諭	渡部 透
〈実践事例 7〉	音楽	東久留米市立神宝小学校	主幹教諭	檜山 雅美
〈実践事例 8〉	図画工作	奥多摩町立氷川小学校	主幹教諭	一場 俊輔
〈実践事例 9〉	体育	武蔵野市立井之頭小学校	主任教諭	安部 絵里
〈実践事例 10〉	外国語活動	武蔵村山市立第十小学校	教諭	高田 博法
〈実践事例 11〉	総合的な学習の時間	清瀬市立清瀬小学校	主任教諭	川邊 裕作



中学校

〈実践事例 12〉	国語	立川市立立川第二中学校	主幹教諭	児島 正樹
〈実践事例 13〉	国語	東大和市立第四中学校	指導教諭	結城 圭絵
〈実践事例 14〉	社会	多摩市立聖ヶ丘中学校	主幹教諭	大澤 裕樹
〈実践事例 15〉	数学	あきる野市立東中学校	主任教諭	宮澤 卓己
〈実践事例 16〉	理科	青梅市立泉中学校	主幹教諭	黒田 浩史
〈実践事例 17〉	音楽	府中市立府中第九中学校	主任教諭	木村 有紀
〈実践事例 18〉	美術	西東京市立ひばりが丘中学校	主任教諭	加瀬 真実
〈実践事例 19〉	保健体育	八王子市立松木中学校	主幹教諭	河東 大樹
〈実践事例 20〉	技術・家庭(技術分野)	調布市立第六中学校	教諭	松井 大樹
〈実践事例 21〉	外国語	瑞穂町立瑞穂第二中学校	主任教諭	河野 美紗
〈実践事例 22〉	特別活動	日野市立大坂上中学校	主任教諭	土屋 洋二

事務局 東京都多摩教育事務所 指導課

統括指導主事	野村 宏行	教育専門員	松本 信之
指導主事	嶺井 勇哉	教育専門員	辻 泰成
指導主事	川島 征也	教育専門員	小林 正隆
指導主事	北原 祐希	学校教育指導専門員	富田 広威
指導主事	小谷 明奈	学校教育指導専門員	渡部 公威
指導主事(併任)	溝口 直哉		
指導主事(併任)	野田 豊		

東京都多摩教育事務所
第30次計画(通算第51年次)報告書

令和7年2月
編集・発行 東京都多摩教育事務所指導課
〒190-0022 東京都立川市錦町4-6-3
TEL 042-524-7222
印刷 有限会社 くらうん工房

登録番号 6(2)



リサイクル適性 
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。